現代タイにおける代表的な宗教研究者と若手・新進気鋭の宗教研究者

矢　野　秀　武

【要旨】　本稿は、現代タイにおける代表的な宗教研究者および若手・新進気鋭の宗教研究者をリストアップし、経歴、現在の所属、研究対象、主要業績を紹介するものである。全体で 55 名の研究者が取り上げられており、次のような 6 つのグループに分けて紹介している。上座仏教思想の研究者（10 名）、多様な分野における仏教研究者（14 名）、タイの宗教研究を一部で行なっている研究者（8 名）イスラーム・ムスリムの研究者（8 名）、キリスト教の研究者（2 名）、宗教研究に関わる若手・新進気鋭の研究者（13 名）。

Leading and up-and-coming researchers of religious studies in Thailand

Hidetake YANO

Abstract

The purpose of this paper was to examine the academic careers and research of leading as well as up-and-coming Thai researchers working in the area of religious studies. The 55 researchers who were chosen in this study were classified in 6 categories according to their research areas: Theravāda Buddhism, Buddhist studies in various fields, partial research on religions, Islam and Muslim studies, Christianity, and young and up-and-coming researchers' studies of religions. This paper has been written only in Japanese; the paper will be translated to English at a later time.

１、はじめに

本稿は、現代のタイ人宗教研究者のうち、アカデミズムの中で中心的な立場にある人物を選定し、その研究内容を紹介すること、ならびに宗教研

究に関わる若手研究者や新進気鋭の研究者の情報も収集し紹介することを目的としている。また本稿は拙著「世俗性の弱いタイ社会において宗教研究はいかなる形でなされているのか」(『駒澤大学　文化』第 37 号 2019 年)とセットの論考であり、そこで分析された事象のもとになったデータを紹介するものでもある。

本稿で紹介する研究者の選出方法については、上記の拙稿でも述べているが、学会役職者、大学の教員紹介サイト、その他の資料を元にして、初期リストを作成し、さらにインタビューを兼ねてリストへの意見聴取を行い、適宜リストに修正を重ねていくという方法をとった。本稿で紹介している研究者は 55 名なっている（業績の少ない若手の研究者も一部に含んでいる)。その際、インタビュー時に複数の方から選ばれた研究者のみをリストに残すといった形にした。なおインタビューは 17 名の研究者に対して行ったが、その全ての方がこのリストに入っているわけではない。また院生やポスドク等の若手の研究者に関しては、別の選別方法をとり、著名な研究者へのインタビュー時に紹介していただいた情報をベースに、業績なども踏まえてリストアップを行なった。

なお今回の情報収集では現役世代だけではなく、教育や研究の一線から退かれた方でもご存命であればリストに加えている。ただし、すでに亡くなられた方でも例外的に掲載しているケースが若干ある。それについては、各該当箇所で説明を付している。

本稿のリストは、このような手続きで作成されたものであり、筆者が作成した初期リストと本稿のリストを比べると、当初と比べ半数程度の入れ替わりがあった。つまり、本稿のリストは、私の見解をたたき台にしながらも、タイ人の宗教研究者の意見・ピアレビューを重視したものとなっている。

このようにある程度体系的な方法で、当事者視点に重きを置き選出を行なってはいるが、言うまでもなく今回のリストは完璧なものでも決定版で

もない。本稿のリストに入らなかった重要な宗教研究者もいる。特に芸術研究や歴史学の分野への広がりに欠け、キリスト教の神学研究についても把握ができなかった。また、一種のピアレビュー方式をとっているとは言え、その意見は聞き取りができた研究者の範囲に限られ、加えて「宗教」の語感の影響からか精霊信仰も論じる人類学者の選出も欠けている。当然、他の方へのインタビューや、他の方法や基準で聞き取りを行なえば、やや違うリストアップがなされるはずである。

次に、リストアップされた研究者の紹介方法について、いくつか述べておきたい。まず人数が 55 名にも上っていることから、研究者情報は最低限のものにとどめた。現在はインターネットで情報が得られるので、詳細な業績一覧などは、本稿で掲載する必要はないと思われる。本稿で紹介する情報は、学位（特に博士号）の取得情報、現在の所属、研究対象、代表的（と筆者が考えた）書籍や論文とした。ただし選出された研究者はいずれも精力的に著作活動を展開しているため、その全ての業績を本稿に掲載する事は紙幅の制限から不可能である。したがって著作に関しては、各人、数点の書籍・論文の紹介に限っている。

ただし、所属に関しては、本稿の調査が行われた 2017 ～ 2018 年の情報をもとにしているので、それ以降に異動があった場合には十分に反映されていない可能性がある。また、研究者情報は、インタビュー、著作類、ネット情報などから得たものだが、インタビューした方とそうでない方の判別につながるため、出典は記載していない。

以下、リストアップされた 55 名の宗教研究者を紹介していくが、その際各研究者を次のように 6 つにグループに分け、またグループのなかでの掲載順は名前の五十音順とした。ただし分類にうまく収まっていないケースもある。

・上座仏教思想の研究者（10 名、1 ～ 10 番）

・多様な分野における仏教研究者（14 名、11 ～ 24 番）
・タイの宗教研究を一部で行なっている研究者（8 名、25 ～ 32 番）
・イスラーム・ムスリムの研究者（8 名、33 ～ 40 番）
・キリスト教の研究者（2 名、41 ～ 42 番）
・宗教研究に関わる若手・新進気鋭の研究者（13 名、43 ～ 55 番）

このグルーピングは基本的には研究分野の違いに基づいているが、比較的年齢の若い大学院・ポスドクの研究者や彼らよりはやや年上である新進気鋭の研究者に関しては、別途最後に「宗教研究に関わる若手・新進気鋭の研究者」において紹介することにした。また、若手･新進気鋭の基準は、便宜的にではあるが、博士号取得年が 2010 年以降、もしくは年齢がおおよそ 40 代半ばまでの研究者としている。

なお、本稿で紹介した研究者の氏名一覧、ならびに書籍・論文の書誌情報は、本稿末尾にまとめてある。必要に応じて参照していただきたい。

2、上座仏教思想の研究者

まず初めに上座仏教を主な対象とし思想・哲学的アプローチの研究において著名な研究者 10 名を紹介したい。ただしその冒頭で、だいぶ以前に逝去した人物ではあるが､例外的に取り上げたい人物を紹介しておきたい。その人物とは、近現代タイにおける随一の学僧・思想家であるプッタタート比丘である｡本稿で以下に取り上げる現代タイの宗教研究者達の多くが、このプッタタート比丘の思想に影響を受けており、またこの僧侶の思想についての研究を行なってきた者も少なくない。したがって、本稿で取り上げた研究者の知的背景を理解するためにも、プッタタート比丘について事前に解説しておく必要があるだろう。

1）プッタタート比丘（1906-1993。パーリ語表記・発音で

Buddhadāsa Bhikkhu ブッダダーサ比丘）

僧位名はプラプッタコーサージャーン。僧名グアム・インタパンヨー。プッタタート比丘は、タイのみならず世界的にも著名な仏教思想家で英訳書も多い。日本の近代宗教史で言えば、鈴木大拙や西田幾多郎のような位置づけになる人物なのだが、残念なことに日本ではほとんど注目されていない。

プッタタート比丘は独学で仏教そしてパーリ語を学習し、その当時の欧米の仏教研究にも知見があり、禅仏教などにも興味を持ち禅籍のタイ語訳にも携わった。またパーリ語聖典について批判的な研究を行ない、仏説として重要な部分とそうではない部分の区分や、仏典解釈も一般的な解釈（世俗的用語からの解釈）に依拠せず、悟りつながるような解釈（仏法用語としての解釈）を強調し、とらわれなき心（空なる心）の重要性を説いた。その思想は、僧侶の修行のためだけではなく、在家者の修行や悟りも重視しており、さらには仏教と消費主義や民主化などとの関連性にまで論及している。開発僧（1970 年代から貧困農村の精神的・経済的支援活動を行なってきた僧侶達）にも、大きな影響を与えた。また瞑想実践の面でも注目されてた僧侶であり、瞑想についての書籍も記している。なおプッタタート比丘は、国家が強く関与したタイ国サンガやその仏典解釈からは距離をとり、僧位を授与されても執筆時などにその名称を使う事はなかった。

プッタタート比丘は多くの書籍を執筆しているが、代表的なものとしては、1961 年から 1962 年に渡りシリラート病院で 3 回行われた講演の記録『仏教の神髄』（1964）（この本は 1965 年にユネスコにより良書として選ばれた）や、『人生読本』（1958）（英訳は *Handbook for Mankind* であり、プッタタート比丘の英語訳本として最も読まれている（ただし『人生読本』は、プン氏（Pun Chongprasoet）がプッタタート比丘の 1956 年の講演を編纂し、不要な用語を削除し、一般向けに分かりやすい表現に変えたものである。この点は本書冒頭の祝辞でプッタタート自身が述べて

いる)。また仏教思想からあるべき政治体制を論じた『仏法社会主義（仏法共同体主義)』も注目を浴びた書籍である。

なお、プッタタート比丘とその思想に関する研究も盛んでありタイ語・英語等の書籍も数多くある。例えば、プッタタート比丘の思想の全体像を把握する入門書としては *BUDDHADASA*（Jackson, 1988)、タイ仏教の近代化の中でプッタタートの思想形成の跡を丹念に追った *Modern Thai Buddhism and Buddhadāsa Bhikkhu*（Ito, 2012）などがある。邦訳では、『呼吸によるマインドフルネス』(2016）がある。

2）ソムデット・プラプッタコーサージャーン（プラユット・パユットー）

僧位名ソムデット・プラプッタコーサージャーン、僧名プラユット・パユットー（以下、プラユット・パユットー師と表記）は、現在のタイにおいてもっとも著名で影響力も強い学僧の一人と言えよう（ちなみにポー・オー・パユットー（P. A. Payutto）というペンネームも使用している)。沙弥の時期に既に教学試験 1 級とパーリ語試験 9 段といういずれも最高の段位を獲得している。タイに 2 つある仏教大学（宗派別の大学で、国立大学。学生の多くは比丘･沙弥だが､在家者や女性修行者も学べる)のうち、マハーニカーイ派の大学であるマハー・チュラーロンコーン仏教大学で仏教学をおさめ、その後同大学において 1963 年に教員となり、1974 年には副学部長などの役職に就いた。現在は、ナコンパトム県に位置するヤーナウェートサカワン寺院（Wat Nyanavesakavan）の住職である。パーリ語聖典における仏教思想の基礎的かつ網羅的な研究だけではなく、仏教思想を現代社会の諸問題に関わらせつつ論じてきた。タイの多数の大学から名誉博士号を授与されただけでなく、1994 年にはユネスコ平和教育賞をタイ人で初めて受賞している。

プラユット・パユットー師の著作は 300 冊を超えると言われるほど極めて多い。その多くは､講演録など比較的ページ数の少ない冊子であるが、

他方で、学問上重要な書籍や辞典など重厚な書籍も執筆している。特に重要なのが、『仏法』であろう。本書はパーリ語聖典と註釈書（および復註、復々註）を縦横に用いて、上座仏教の思想を網羅的に解説しているものであり、タイの仏教研究や学習において重視されている書籍である。この書籍は原版と増補改訂版といった 2 種類があるが、いずれも時を経て増補されていった。原版の初版である 1971 年版は 206 頁であったが、その後 2001 年に増補されて 375 頁になった（2008 年に邦訳が刊行されている）。他方の増補改訂版の初版は 1982 年に刊行されたが、その後増補改訂を重ね 2000 年版では、1145 頁にまで至っている（ポー・オー・パユットー：2006、406）。その他に『仏教辞典　仏法篇』（初版 1975 年、その後改訂、2012 年に邦訳が刊行されている）、『仏教辞典　用語篇』（初版 1963 年、その後改訂）なども執筆している。その他、英語訳された著作も多く、*Thai Buddhism in the Buddhist World* (1984) や *Buddhist Economy* (1992) などが知られている。さらに、プラユット・パユットー師の思想を論じた、タイ語や英語による研究書・論文も数多く執筆されている。

3）ソムパーン・プロムター

仏教の哲学的研究で著名な研究者。出家時にマハー・チュラーロンコーン仏教大学を卒業し、その後、チュラーロンコーン大学の文学部哲学科に進学しそこで博士号を取得する（時期は不明だが還俗している）。後に、チュラーロンコーン大学文学部哲学科の教員となり、2016 年に定年退職された。現在はマハー・チュラーロンコーン仏教大学の教員となっている。

60 冊を超える著作があると言われており、その多くは、仏教に関して、西洋哲学や倫理学の観点から批判的に考察したものである。例えば『禅仏教』（1989）、『大乗仏教』（1991）など大乗仏教に関する概説書・研究などともに、『仏教と科学』（1991）、『仏教哲学・人間・社会と倫理問題』（1992）などといった著作もある。退職記念として『論蔵における仏教哲学』（2016）

が刊行されている。なお、*The State of Buddhist Studies in the World 1972-1997*（2000）という書籍は、ソンパーン・プロムターが共同編著者となっており、その中の“Buddhist Studies in Thailand”という論文は、彼が執筆している。内容は、本稿のようにタイにおける著名な仏教研究者を紹介するものである。また画家としても知られており、自身の書籍の装丁なども手掛けている。

4）チャーンナロン・ブンヌン

哲学研究と歴史学研究に基づき、社会・政治・ジェンダーなどの多様な観点から上座仏教を批判的に論じている研究者。気鋭の論客としても知られてる。チュラーロンコーン大学文学部哲学科で、『上座仏教の真理論』という博士論文を執筆し、博士号を取得している。現在は、シンラパコーン大学文学部の教員。

チャーンナロン・ブンヌンは多くの論考を執筆しているが、それらをまとめた書籍は刊行されていない。彼の議論の特徴が現れている論考をいくつか挙げるとすれば、例えば、前近代タイの法典から政教関係を捉えた「国家と仏教　『三印法典』におけるサンガ法の研究」（2003）、仏典結集をサンガによる討議と問題解決の手法として解釈した「結集を新たな視点から見る　現代タイ国サンガの問題解決に向けて」（2004）、上座仏教における女性の位置づけを論じた「女性　失われた宗教と哲学」（2006）などがある。いずれの論考も、歴史研究や哲学思想研究を通じて、現代のタイ仏教界への批判を行い、仏教界・タイ社会の問題解決につなげる手法が垣間見られる。一方、専門ではないが、教育省からの依頼でタイ国サンガの地方の状況などを統計や現地取材から捉えた『タイ国サンガの未来　変容に関する初歩的考察』（2008）なども刊行している。

5）パトムポン・ポープラシッティナン

パーリ語だけではなくサンスクリット語やプラークリットなどにも詳しいは仏教学者。沙弥時代にパーリ語試験の最高段位９段に合格している。大学はタンマユット派のマハーマクット仏教大学に入学し、その後イギリスのオックスフォード大学の大学院に進学した。博士課程では世界的にも著名な仏教学者リチャード・ゴンブリッチに師事し、初期パーリ語散文文献に関して研究を行ない、2002 年に博士号を取得した。オックスフォード大学東洋研究所でパーリ語とサンスクリット語を学んだタイ人研究者は彼以前にも数名いたが、博士号を取得したのは彼が最初と言われている。その後還俗し現在は、マヒドン大学人文社会科学部の教員となっている。

代表的な著作としては、編著の『パーリ・サンスクリット研究』（1993）、『パーリ・サンスクリット語と言語学』（1994）、タイ仏教に関する総合的な通史である『研究報告　タイ仏教史　スコータイ時代からラーマ５世王時代まで』（2006）などがある。また一般啓蒙書ではあるが、『ブッダの教え　私が解説しましょう』（2011）などもある。

６）プラピクニー・タンマナンター（タンマナンター比丘尼、パーリ語表記・発音で Dhammananda Bhikkhuni ダンマナンダ比丘尼）

タイ人初の上座仏教の比丘尼。出家前の氏名はチャッツマーン・カビンシン。学部時代のインド留学にはじまり、宗教学の修士をカナダのマクマスター大学で取得し、さらに博士号をインドのマガダ大学で取得している。1969 年からマクマスター大学で教鞭をとり、その後タイのタマサート大学に職場を変え宗教・哲学科の教員となる。さらにその後退職し、2001 年にタイ人初の上座仏教の沙弥尼としてスリランカで出家し、2003 年比丘尼となった。ただしタイ国サンガは、沙弥尼・比丘尼としての出家式そのものを正式には認めず、沙弥尼・比丘尼の存在については静観を続けている。現在は、ナコンパトム県に建立された比丘尼寺院であるソンタムカラヤーニー寺院（Wat Songdhammakalyani）で、宗教活動・執筆など

を行なっている。

プラピクニー・タンマナンターは、出家以前から英語による執筆も多く、特に女性と仏教に関する著作が多い。例えば、タイ仏教を中心にフェミニズム視点から仏典、メーチー（尼僧）、比丘尼運動、売春と仏教を論じた *Thai Women in Buddhism*（1991）や、女性と仏教についての質疑応答をまとめた *Women in Buddhism: Questions and Answers*（1998）などがある。タイ語による執筆でも、エッセイ、法話、様々な国の女性仏教者・比丘尼などについての研究書など多岐の内容にわたる多数の著作がある。これについては代表作を挙げるよりも、これら全てがタイで初めての上座仏教の比丘尼となった者の経験や、比丘尼サンガの状況を記した、歴史的な資料ととらえてもよいだろう。

7）プラプローム・バンディット（プラユーン・タンマジットー）

僧位名プラプローム・バンディット、僧名プラユーン・タンマジットー（以下、プラユーン・タンマジットー師と表記）。プラユーン・タンマジットー師は、マハーニカーイ派のマハー・チュラーロンコーン仏教大学の学長として 1997 年に就任。同大学の哲学教授であり、また王立学士院における哲学分野の名誉会員でもある。その他バンコクに位置するプラユーラウォンサワート・ワラヴィハーン寺院（Wat Prayurawongsaeas Waravihan）の住職であり、第 2 地区長（タイ全県を 18 地区に区分）、タイ国サンガの長であるサンカラートの秘書委員も兼ねているといったサンガの要職にも就いている。

プラユーン・タンマジットー師は、まだ沙弥であった時期の 1969 年に教学試験 1 級そして 1976 年にパーリ語の最高段位である 9 段に合格し、その後インドに留学し 1986 年にデリー大学で博士号を取得している。著作は極めて多いが、その多くは説法や講演などを書籍化したものである。それら以外に、執筆された書籍として主要なものとしては、『プッタター

ト比丘とサルトルの思想の比較』（1983）（プッタタート比丘は本稿 1 の人物）、『古代ギリシャの哲学 1・2』（1989）、『仏教と哲学』（1990）、『タイ国サンガ統治の規定』（1990）などがある。その他、2000 年代以降、教育省の仏教科のカリキュラムや教科書等の編集などにも携わってきた。

8）プラポット・アサワウィルラハカーン

パーリ語・サンスクリット語文献の研究、および上座仏教の碑文・歴史学的研究で知られた仏教学者。カリフォルニア大学バークレーで 1990 年に博士号を取得し、その後、チュラーロンコーン大学文学部の東洋言語学科の教員となる。定年退職し、現在は、チュラーロンコーン大学の顧問委員となっている。

主たる業績には、上座仏教と大乗仏教の菩薩について論じた『菩薩行衆生への道』(2003) や、博士論文を基に刊行された *The Ascendancy of Theravada Buddhism in Southeast Asia*（2010）などがある。特に後者は、文献のみならず碑文資料なども用いた上座仏教圏の古代史であり、南・東南アジアの仏教の歴史・文献学者であるピーター・スキリングもこれを高く評価している。

9）メーチー・ウィムッティヤー（スパーパン・ナ・バーンチャーン）

インド・スリランカ・タイのパーリ文学を中心に研究をしてきた研究者。1981 年にスリランカのペラデニヤ大学において、パーリ語で博士号を取得している。1972 年からチュラーロンコーン大学文学部・東洋言語学科のパーリ・サンスクリット語担当の教員となる。その後言語文化の側面よりも、仏法としてのパーリ語に興味の比重が増し、自ら瞑想修行を行いまた仏典学習も深めて、1993 年（もしくは 1991 年）に大学の職を辞して、女性出家者メーチーとしての人生を歩むこととなる。その後、2005 年に再び大学に戻るが、その際教員としてではなく、メーチーの立場で（つま

り被雇用者の立場ではなく)、文学部の国際三蔵図書館長に就任した。

代表的な著作としては、パーリ語・パーリ文学に関する『インドとスリランカにおけるパーリ文学』(1983)、『タイにおけるパーリ文学の展開碑文・伝説・年代記・書簡・布告』(1986)、『タイにおける経蔵系統のパーリ文学の展開』(1990)が挙げられる。また、政治・世界観・人生観などにも着目したタイ仏教思想史『タイ社会の基礎としての仏法　スコータイ時代から立憲革命前まで』(1992)なども著している。その他パーリ語の文法書や三蔵の翻訳解説本なども刊行している。

10)ワチラ・ガームジットジャルーン

専門は仏教哲学。沙弥の時期にパーリ語9段に合格している。マハー・チュラーロンコーン仏教大学を卒業後、インドのデリー大学哲学科で修士を得、さらに2001年に博士論文『上座仏教における涅槃　我か無我か』をもって、チュラーロンコーン大学文学部哲学科の博士号を取得した。後にマハー・チュラーロンコーン大学仏教学部哲学科の教員となり、その後タマサート大学教養学部哲学科の教員となった。

代表的な著作としては、『仏教式の経済運営法　実践へ向けて』(2011)、『仏教と近代物理学』(2011)、『上座仏教』(2013)などがある。

3、多様な分野における仏教研究者

次に、上座仏教の思想研究を専門とはしないが、主として仏教研究に携わっている著名な研究者14名を取り上げる。彼らの研究対象や手法は、日本仏教その他の大乗仏教の研究、社会学・人類学・経済学・政治学・死生学などを中心とした仏教研究、ヒンドゥー教や日本・中国思想研究とタイ仏教の比較研究など多岐にわたっている。

11)アピチャイ・パンタセーン

仏教経済学や充足経済の専門家。充足経済とは、Sufficiency Economy Philosophy ないしは「足るを知る経済」などとも呼ばれており、アジア危機以後のタイにおいて前国王ラーマ９世が提唱し、タイ国家も支援している経済思想とその実践である。過度の成長よりも最小限度の必要を重視した持続性を強調するもので、その理念的・道徳的根拠は仏教思想に基づく経済実践とされている。また、学僧プラユット・パユットー師（本稿２の人物）の仏教経済学に関する論考からの思想的影響もある。

アピチャイ・パッタセーンは、アメリカのヴァンダービルト大学に留学し、1973 年に経済学の博士号を取得している。その後、オーストリア、ドイツ、スウェーデン、および日本の大学などで、客員研究員・客員教授として研究・教育活動に携わり、2001 年からタイのタマサート大学経済学部の教員となる。

多くの著作を刊行している研究者で、代表的なものとしては、『タイ地方村落の発展　集（原因）と道（方法）　運営とマネージメントの変容』（1996）、大部の著ながら現在４版まで刊行されている『仏教経済学　その展開・理論と経済学の諸分野への応用』（2001）、この大著のダイジェスト版で一般向けに書かれた『仏教経済学　大学生･一般人向け』（2006）、国王ラーマ９世による充足経済思想を論じた『国王の充足経済思想の中規模・小規模産業への応用』（2003）などがある。

12）アピンヤー・フアンフーサクン

瞑想集団などの研究やアイデンティティの理論的考察など行っている文化人類学者。1993 年にドイツのビーレフェルト大学で社会科学の博士号を取得。現在はチェンマイ大学社会科学部の教員。

宗教研究に関する代表的な著作として、1970 年代から都市新中間層に多くの信徒を得たタンマガーイ寺院についてのインタビュー・観察・文献研究に基づいて書かれた「研究報告　近代と市民の宗教観　タンマガー

イ寺院のケース」（1998）、宗教人類学の入門書・教科書だが、アイデンティティ形成論、ポストモダン理論、ジェンダー論、民族論、宗教運動論など比較的高度な内容である『宗教人類学　基本的な視点と理論的争点』（2008）などがある。また都市中間層的の集団瞑想に見られる空間配置と自己変容について論じた「つながりの場としての宗教的体験　現代タイにおける集団仏教修行」（2013）（その内容を短くして英訳したものが“Urban Logic and Mass Meditation in Contemporary Thailand”（2012））、さらに女性の宗教的アイデンティティ・自己形成とポリティクスについて、比丘尼、メーチー（女性出家修行者）、在家女性修行者の事例から論じた“Identity Politics and Religious Experience : Case studies of Female Movement in Theravada Buddhism in Contemporary Thailand”（2015）などがある。これらの研究、特に理論面においては、タイ北部の宗教実践（霊媒、儀礼など）を研究している文化人類学者の田辺繁治の影響も少なくない。

13）クリスダーワン・メーターウィクン

チベット語やチベット文化の研究者でありチベット仏教の実践家。1993年にアメリカのインディアナ大学においてネパール在住チベット人の言語の調査研究で博士号を取得。その後タイのチュラーロンコーン大学文学部言語学科の教員となる。2005年にチベット仏教の布教等を行うパンダーラー財団（The Thousand Stars Foundation）を設立し、タイ中部のプラチュアップキーリーカン県のフアヒンに修行施設も建設。その後2007年に、チベット仏教の実践と布教などに専念するため大学を退職。

言語、文化、仏教など多岐にわたる著作があり、仏法書の翻訳も手掛けている。仏教関連の著作としては、『人生を無駄にしないために死を知る』（2016）、『祝福のシャワー ヨーギー・クンドル・モンギャル・ラーセイ師の生涯とチベット仏教ゾクチェンの教え』（2016）などがある。

14）サムーチャイ・プーンスワン

タイ北部国境域周辺地域の広義のタイ（Tai）系少数民族、仏教壁画、遺伝的系譜研究によるタイ族の移動・形成などを行なっている研究者。アメリカのミシガン大学で形質人類学の博士号を取得している。タマサート大学の教員。

代表的な著作として、『仏暦 19 世紀から 24 世紀におけるタイの壁画の象徴』（1996）、『パガン時代の仏教壁画　信仰芸術の形と意味　第 1 巻・第 2 巻』（2016）などの仏教壁画研究や、カリスマ僧ブンチュム師などをも取り上げた『シャン州（ムアン・タイ Muang Tai）　歴史と近代政治社会における民族のダイナミズム』（2009）などがある。

15）スマーリー・マハナロンチャイ

大乗仏教を中心とした仏教哲学の研究者。2012 年にインドのジャワハルラール・ネルー大学において哲学で博士号を取得。その後、タマサート大学・教養学部の教員となる。

『大乗仏教』（2003）、『ヒンドゥー教と仏教　相違点』（2003）、『龍樹と中論』など大乗仏教の研究が多いが、近年では *Health and Disease in Buddhist Minds*（2015）など仏教と健康に関する研究も行なっている。

16）スラック・シワラック（Sulak Sivaraksa タイ文字表記の氏名を英語表記ではこのように表記しているが、タイ語の発音にもとづけば、スラック・シワラックとなる。）

現代タイを代表する知識人・作家であり、仏教思想に基づく社会形成を目指す活動家。1952 年にイギリスの大学へ留学し、1962 年に帰国後、人文・社会系の論壇雑誌『社会科学評論』を創刊した。権威におもねらない気鋭の論客であり、何度か王室不敬罪で訴えられてもいる。権威主義的保守主義に批判的なだけでなく、自由主義・資本主義にも批判的立場であ

り、仏教思想を基盤にした新たな社会の形成を主張し、そのための仏教変革の必要性についても論じている。プッタタート比丘（本稿 1 の人物）やパユットー師（本稿 2 の人物）の思想からも影響を受けている。活動家として様々な組織も立ち上げており、1989 年に創設されたエンゲージド・ブディズムの組織である仏教者国際連帯会議（International Network of Engaged Buddhists）はその 1 つである。

スラック・シワラックの著作は 100 冊を超えるともいわれており、タイ語の著作の中から代表作を選ぶのは難しい。また英訳本も多くあり、比較的多く読まれているものとして、*Seeds of Peace: A Buddhist Vision for Renewing Society*（1992）や、*Conflict, Culture, Change: Engaged Buddhism in a Globalizing World*（2005）などがある。邦訳されたものしては、『タイ知識人の苦悩　プオイを中心として』（1984）、『しあわせの開発学　エンゲージド・ブディズム入門』（ゆっくり堂 、2011. [*The wisdom of sustainability : Buddhist economics for the 21st century,* 2009 からの邦訳]）。またスラック・シワラックの思想や活動を論じた書籍・論考も多い。

17）スワンナー・サターアナン

儒教など中国哲学の専門家であり、かつ仏教哲学や現代社会と宗教の問題も論じている研究者。アメリカのハワイ大学において曹洞宗の道元の思想についての博士論文を執筆し、博士号を取得。その後、タイのチュラーロンコーン大学文学部哲学科の教員となる。現在は定年を迎え同大学の招聘教授となっている。タイの哲学・宗教思想研究における重鎮の一人であり、国際哲学会連合（FISP）事務局長も務めている。

また西洋思想とタイ仏教思想の接点の模索、女性・ジェンダーについての宗教・哲学的研究など幅広い研究を行なっており、英語の論考も多い。例えば、布施太子のジャータカ物語を女性に注目して解釈し

た "A Buddhist Gift Enigma: Exchange in Vessantara's Bodhisattvic Perfection of Giving（2017）などがある。また一部の論考はフランス語、中国語、韓国語にも翻訳されている。編著も多いが、代表的な単著としては、現代タイの代表的仏教思想家プッタタート比丘（本稿 1 の人物）の思想を大乗仏教との比較から論じた『プッタタート比丘の思想と大乗の仏法』（1993）、タイの上座仏教思想と西洋的な宗教哲学の異同を論じた『信仰と智慧』（2002）、西洋や中国の儒教研究にも触れつつ生身の人間性や感情と哲学･倫理との接点を論じた『儒教哲学における感情と良き人生』（2014）などがある。また『論語』のタイ語訳も行なっている。

18）ソンブーン・スクサームラン

国家・政治と仏教の関係などを中心に研究してきた政治学者。イギリスのハル大学で東南アジア社会学の分野でタイの政治僧についての博士論文を執筆し、1979 年に博士号を取得。その後タイのチュラーロンコーン大学政治学部の教員となる。その後定年で退職。王立学士院の会員。

政治学専門の著作以外に､宗教と政治に関しての英訳された著作も多い。例えば、タイ仏教サンガと国家との関係を論じた *Political Buddhism in Southeast Asia : the Role of the Sangha in the Modernization of Thailand*（1976）、1970 年代に台頭したタイの政治僧を扱った *Buddhism and Politics in Thailand : a Study of Socio-Political Change and Political Activism of the Thai Sangha*（1982）、タイ・ラオス・カンボジアの近現代における仏教と国家・政治との関係を論じた *Buddhism and Political Legitimacy*（1993）などがある。その他に、タイの華人宗教に関する *Religious Belief and a Ritual of Chinese Community*（1987）や､タイ語の著作で『仏教式の開発　開発僧の研究』（1987）などもある。

19）タウィーワット・プンタリックウィワット

宗教思想と社会との関りについて研究している宗教学者。アメリカのテンプル大学にて 1994 年に宗教と社会の博士号を取得。マヒドン大学の人文社会科学部の教員となり、定年退職後、現在はマヒドン大学人文社会科学部・中国研究センターのセンター長となっている。

初期には主に思想研究に取り組み『大乗の方法』（1983）や『日本社会と禅』（1987）なども著している。その後、宗教思想と社会との関係に注目するようになった。代表的なものとして、『プラタムピドック（パユットー師）の視点で見たタイ社会』（1996）、博士論文を基にした『従属理論と解放の神学』（2001）などがある。さらにこれらの書籍で取り上げた論点を総合した書として、*Thai Buddhist Social Theory*（2013）がある。この書籍は、プッタタート比丘の思想（本稿 1 の人物）、パユットー師の思想（本稿 2 の人物）、仏教における解放の神学、人権思想、社会倫理思想などを取り上げている。

20）パッタラポーン・シリカーンジョン

仏教を中心に比較宗教や倫理学の側面から研究をしている宗教学者。1985 年にアメリカのペンシルベニア大学において宗教学の博士号を取得。タイ仏教教学の基礎をつくったワチラヤーン親王とプッタタート比丘（本稿 1 の人物）の仏法概念の比較といった博士論文を執筆している。現在はタマサート大学教養学部の教員。

代表的な著作として規範的仏教・知識人仏教・民衆仏教・社会参加仏教・タイの大乗仏教・非正統仏教などの側面からタイの仏教を論じた『タイ仏教　多様性の中の統一』（2014）、タイの学僧パユットー師（本稿 2 の人物）の思想を論じた『プラモンコンテープムニー（パユットー師）の論考における倫理学』（2011）などがある。英語の書籍では、タイ仏教の信仰と実践を扱った *In Search of Thai Buddhism*（2012）や、タイの瞑想

センターを紹介した *A Guide to Buddhist Monasteries and Meditation Centers in Thailand*（2004）がある。

21）ピニット・ラタナクン

専門は哲学で、タイの生命倫理学研究のパイオニア。アメリカのイェール大学において哲学で博士号を取得。その後、タイに戻りタマサート大学の教員を経てマヒドン大学人文社会学部の教員となる。後に、哲学と医学の連携、諸宗教からの学びなどが必要と考え、マヒドン大学に宗教学部を設立する。タイで初めての宗教学専門の学部となった。現在は教育の一線から退き、宗教学部の顧問と特別講師の立場となっている。

宗教関連の著作で代表的と言えるのは、生命倫理と仏教思想との接点を論じた *Bioethics and Buddhism*（2004）。その他独特な宗教間対話を試みた書として、健康と癒しについて異なる宗教の立場から問題の解決を語り合う *Health, Healing and Religion : An Inter-religious Dialogue*（1996）、タイ仏教僧に他宗教の研究者がそれぞれの視点から問いを投げかけ対話を行う『知識人からの問いかけ　チャルーンチャルーイ師』（2012）などがある。

22）ピニット・ラーパタナーノン

村落開発、宗教社会学の研究者。特に村落における生活・経済・精神面の支援を行う開発僧の研究で知られている。2001 年にイギリスのハル大学において東南アジア研究で博士号を取得。その後、チュラーロンコーン大学の社会研究所の教員となる。

開発僧研究で代表的なものとして、『村落開発における僧侶の役割』（1986）があり、さらには東北タイの開発僧の氏名・寺院・経歴・業績などを記した名簿である『東北タイの開発僧 30 名　2003 年から 2004 年経歴と業績』（2007）、『社会変動と東北タイの開発僧の役割の変化　研究

報告』（2006）なども刊行している。なお邦訳された論文に「「開発僧」と社会変容　東北タイの事例研究」（2009）がある。

近年では、開発僧の高齢化に伴う健康問題などにも関心を持ち、『三蔵における健康論』（2013）、『僧侶の健康　2012 年』（2013）など、僧侶と健康についての研究も行なっている。また僧侶のインターネット利用の問題などについての書籍も刊行している。

23）プラ・パイサーン・ウィサーロー

社会問題と仏教の接点から説法や著作活動を行っている僧侶。1970 年代のタイの政治的争乱時代に非暴力運動に関わり、その後 1983 年に僧侶となる。現在は東北タイのチャイヤプーム県にあるスカトー寺の住職。タイの開発僧達によるネットワークであるセーキヤタム・グループの中心メンバーの一人。

説法をもとにした著作など 100 冊を超える著作がある。学術書として評価が高いのは、600 頁を超える大著『未来のタイ仏教　その趨勢と危機からの脱却』（2009）で、タイ仏教の歴史と特質およびタイ国サンガの改革などを論じている。また、台湾の仏教団体に関して論じた『善を生み出す学知と技芸　仏教慈済基金会の研究』（2007）などの著作もある。その他にもグローバル化、市民社会、暴力、死との向き合い方など、現代社会の諸問題を踏まえつつ仏法実践による変革を説いた著作も多い。

24）プラトゥム・アンクーンローヒット

プラグマティズム思想の専門家であり、また日本宗教の研究も行なっている研究者。1983 年に日本の南山大学で Certificate in Japanese Studies を取得し、その後 1993 年にアメリカのペンシルベニア大学において博士号を取得している。その後、チュラーロンコーン大学文学部の哲学科教員となり、定年退職後、同大学の仏教学センターのセンター長となる。

宗教研究の代表作としては、タイの創価学会について研究した博士論文 *Soka Gakkai in Thailand: A Sociological Study of Its Emergence, World View, Recruitment Process, and Growth* (1993)、親鸞思想について論じた『菩薩の誓願　親鸞思想の論点』(2010) などがある。また、神道・仏教・新宗教・政治と宗教など日本の宗教事情を紹介した論考「日本社会における宗教」(2011) も執筆している。

４、タイの宗教研究を一部で行なっている研究者

次に、タイの宗教研究のみを専門とする者ではないが、この分野で重要な書籍・論考を著した８名の研究者を取り上げる。

25）クワンチーワン・ブアデーン

1988 年にフィリピンのアテネオ・デ・マニラ大学にて人類学で博士号を取得。現在は、タイのチェンマイ大学社会科学部・社会学・人類学科の教員。専門は山地少数民族研究で、特にカレン族における国境間の移動、労働、宗教運動などに注目。宗教関連の著作として『タイ・ミャンマー国境を越えるカレン族の仏教ネットワーク』(2017) があるが、これは 2010 年からのタイ・ミャンマー国境域をまたぐカリスマ僧の宗教運動に、カレン族の移住労働者、その他の外部地域の人々が関わっていく様子を捉えている。

26）ソムバット・ジャンタワン

政治思想の研究者。アメリカのクレアモント大学院大学において政治学で博士号を取得。その後、タマサート大学政治学部の教員となる。タイの政治思想や政治活動･選挙活動などを中心に研究しているが、その一部で、1970 年代に台頭し政治活動も展開した仏教団体サンティ・アソークについての研究を行なっている。例えば、この団体の宗教共同体に関する『パ

トム・アソーク共同体プロジェクト　仏教ユートピアの研究』（1988）や、サンティ・アソークの関わる政党について論じた『新たな政党　法力党のケースについての研究』（1989）などがある。

27）ニティ・イアオシーウォン

現代タイを代表する歴史学者の一人。前近代タイの歴史研究が専門。1976年にアメリカのミシガン大学で博士号を取得。長年タイのチェンマイ大学文学部歴史学科で教鞭をとり、2000年に定年退職。その後も、精力的に執筆活動などを行なっている。前近代のタイ史研究ではところどころで宗教とりわけ仏教に関わる事象を扱う事になるが、宗教研究を中心とした著作としては、『初期の時代のイスラーム』（1968）、20世紀末のタイで広まったラーマ5世王崇拝を論じた『聖国父ラーマ5世王信仰』（1993）、タイ仏教を論じた『タイの社会変動における仏教』（2000）などがある。またエドワード・コンゼ著『仏教　その教理と展開』のタイ語訳も行なっている（1971）。なお宗教の研究書に限らないが邦訳された著作として、『ニティ撰集』（1999）、『当てにならぬがばかにできない時代タイの社会と文化』（2000）、『東北タイのロケット祭り』（2007）がある。

28）パゴーン・シンスリヤー

西洋哲学、宗教哲学、倫理学を専門とする研究者。1998年にチュラーロンコーン大学文学部において哲学で博士号を取得。現在は、タイのマヒドン大学社会学・人類学科の教員。仏教研究、倫理学など幅広い研究を行なっている。ポール・リクールの思想研究者としても知られている。

宗教を主たる対象とした論考としては、博士論文『宗教的言説における真理』（1997）、単著論文で「仏教と社会における倫理の発展」（2000）、"Interpretation and Explanation of Buddhism Through Scientific Framework : Case Studies in Thailand"（2013）、共著報告書に「ノン

カーラーム寺院（バンコク都クローンサーン区）優れた日曜仏教学習運営」（2005）などがある。

29）パッタナー・キッテイアーサー

若くして亡くなった著名な文化人類学者。本稿は原則として故人は取り上げないが、宗教研究にも大きな影響を与えた研究者なので、触れておきたい。パッタナー・キッティアーサーは、1999年にアメリカのワシントン大学において博士号を取得し、その後タイ東北部にあるスラナーリー大学の教員となり、2004年からシンガポール国立大学の東南アジア研究の教員となる。外国でのタイ人移民労働者、民衆仏教、タイ東北部の民衆文化についてなどの研究を行なった。2013年に逝去。

宗教関係の代表作であり、最後の著作となったのが、博士論文を基に内容を拡充した *Mediums, Monks, and Amulets: Thai Popular Buddhism Today*（2012）である。

30）ピパット・パスターンチャート

在野の思想家・作家。カセサート大学の経営学で修士号を取得し、工学系の会社業務を行なう。歴史・哲学・思想・科学など多方面の著述も行なっている。世俗主義とその後の社会を正面から論じるタイの新たな世代の論客の一人。ジャック・デリダやマルティン・ハイデガーなどの現代哲学に関する書籍も著している。宗教研究に関しては、西洋政治思想史と民主主義・人権、政治と宗教さらにタイのサンガ法なども論じている『国家と宗教　政治領域・宗教領域と自由に関して』（2002）、タイの仏教的知識人の思想について還元主義とホーリズムという点から論じた『ホーリズム タイ社会における科学と宗教に関する議論』（2005）、さらにユルゲン・ハーバーマスのポスト・セキュラリズムを扱った『ポストセキュラー・ソサエティ　ハーバーマスとポスト世俗社会』（2019）などがある。

31）プラウェート・ワシー

医師であり政治的社会的に影響力を持つ社会活動家・社会評論家。仏教思想を基盤にしたコミュニティ形成や社会福祉政策立案などにも関わる。1960 年にアメリカのコロラド大学において血液学で博士号を取得。その後タイのシリラート病院医学部の医師やマヒドン大学の副学長などの職に就いた。1981 年にラモン・マグサイサイ賞を受賞。現在は医学部問の王立学士院名誉会員、福祉研究所委員など。

プラウェート・ワシーの著作は数多く、また多様な分野にまたがっている。仏教に関する書籍としては、『福祉と仏教』（1978）、『社会のための宗教　カモーンキームトーン財団講演集　1976 年と 1979 年』（1982）、『仏教的農業とタイ社会の平和』（1987）、社会問題となったタンマガーイ寺院の思想や活動を論じた『タンマガーイ派とタイ社会の役割』（1999）、台湾の仏教慈済基金会の訪問記である『仏法の旅　仏教慈済基金会を訪問』（2009）などがある。ただし、これらの著作に限らず、プラウェート・ワシーの活動や多様な著作自体が、現代タイ社会における仏教と公共政策や社会活動と接点についての事例であるとも言えよう。

32）プラコーン・ニンマーヘーミン

タイの地域言語と民衆文学に関する研究のパイオニア。1987 年にチュラーロンコーン大学文学部タイ語学科において博士号を取得。その後チュラーロンコーン大学文学部タイ語学科で教鞭を取り、定年退職後は同大学文学部の特別教授となる。王立学士院の地方文学部門の会員。地方文学は様々な点で宗教とりわけ仏教との接点があるが、仏教に重きを置いた研究書としてはタイ北部のジャータカを扱った『地方文学としてのランナーのジャータカ物語の研究』（1978）や『探求　仏教説話』（1999）などがある。

5、イスラーム・ムスリムの研究者

イスラーム・ムスリムの研究者として著名な８名を以下に取り上げる。

33）イスマーイール・ルッフィー・ジャパッキーヤー

現代タイで強い影響力を持つ改革派ウラマーで教育者。1986 年にサウジアラビアのイマーム・ムハンマド・ビン・サウド大学において法学の博士号を取得。タイ初のイスラーム私立大学ファートーニー大学（元ヤラー・イスラーム大学）の学長。また、タイ人ムスリムのマッカ巡礼引率者（アミール・ハッジ）や国会議員としての経歴もある。

彼のタイ語著作の多くはアラビア語などで執筆されたものからの翻訳である。例えば、『聖典クラーンの学び方』（2003）や『平和の宗教・イスラーム』（2004）などがある。これら以外にもタイ語訳された書籍は多いが、タイ中部の大学図書館にあまり取り揃えられてない。ただし、IslamHouse.com でタイ語訳された一部の書籍の PDF 版をダウンロードできる。

34）イムローン・マルーリーム

イスラーム学を専門とする研究者。インドのアリーガル・ムスリム大学において西アジア研究で博士号を取得。タイのカセサート大学社会科学部の教員となり、その後定年退職し、同大学の特別教員となる。イスラーム学関連の著書として『イスラーム教入門』（1981）、『イスラーム哲学』（1991）があり、またムスリム研究では、タイ南部の分離主義運動などを取り上げた『タイ政府とタイのムスリムとの紛争についての分析　タイ南部国境県におけるムスリム集団のケース』（1995）などがある。

35）ウィナイ・ダラン

脂質学、医療生化学、ハラール科学の専門家。1989 年にベルギーのブリュッセル自由大学において応用生物医学の博士号を取得する。チュラーロンコーン大学の教員となり、1995 年に同大学ハラール研究センターを

創設し、現在もセンター長の任にある。マレーシアやフィリピンなどのハラールに関する賞を受賞しており、ハラール科学において世界的にも著名な研究者である。

著作も専門のハラール科学から、ハラール食に関する一般書まで幅広く執筆している。例えば、*Muhammad : The World's Great Scientist*（2015）、『100 の応用技術改善　科学からハラールへ』（2016）、『預言者ムハンマド　聖クルアーンからハラールの方法へ』（2017）、『世界のハラール食市場に進出』（2008）などがある。

36）サオワニー・ジットムワット

タイのムスリム研究初期の世代の研究者で、タイ・ムスリム、民族集団、イスラーム文化などが専門。チュラーロンコーン大学において社会人文学で修士号を取得。その後ラーチャパット・トンブリー大学で教鞭をとり、現在は定年退職。タイ国女性ムスリム議会代表、ムスリム世界政策センター代表などの役職にも就く。著作には、修士論文『タイ中部のムスリム社会におけるモスクの役割』（1984）、タイ・ムスリムの多様な民族集団について論じた『民族集団　タイ・ムスリムの人々』（1988）、『イスラーム文化』（1992）、『ムスリム女性とテクノロジー時代の生活』（1992）などがある。なお邦訳された論考に「タイ・ムスリム社会の位相　歴史と現状」（2009）や「タイ・ムスリム関連資料」（2009）がある。

37）サラーウット・アーリー

中東・アラブ社会、タイのムスリム社会についての地域研究者。2002年にインドのアリーガル・ムスリム大学において政治学で博士号を取得。現在は、タイのチュラーロンコーン大学アジア研究所ムスリム研究センターの教員。著作は、中東アラブ社会論として『中東事典プロジェクト研究報告書　最終版』（2008）、『中東文化を学ぶ ビジネス交渉における

アラブの方法を理解する 最終報告書』(2010) などがあり、またタイやアセアンのムスリムの状況を紹介する研究として、『タイの国際ムスリム慈善組織の役割 ムスリム世界連盟・イスラーム遺産修復財団、世界イスラーム青年会議』(2009)、共著の *Role of Islam in Contributing to the Construction of ASEAN Socio-Cultural Community*（2016）などがある。その他、サウジアラビア研究、タイのイラン外交研究、イスラームとテロの研究なども行なっている。

38）シーソムポップ・ジットピロムシー

政治学、教育行政、政策学、平和と紛争などからムスリム研究を行なっている政治学者。1997 年にアメリカの北イリノイ大学において政治学で博士号を取得。現在はタイ南部のソンクラーナカリン大学政治学部の教員。宗教事象を中心に据えた単著はないが、編著としてタイ南部国境県におけるムスリム住民の生活状況を捉えた『パタニーにおける共同体の人生と運動』(2002)、『平和構築ための政治と通信の変遷 思考と経験』(2019) などがある。

39）ジャラン・マルーリーム

中東研究の専門家。1989 年にインドのアリーガル・ムスリム大学において西アジア研究で博士号を取得。その後タイのタマサート大学政治学部の教員となる。中東関連の入門書や、湾岸戦争とイラク、アラブの春、インドのアヨーディアにおける宗教衝突といった時事問題についての著作がある。イスラームを主たる対象とした著作としては、『中東におけるムスリム共同体の多様性と統合　研究報告』(1996)、『OIC ムスリム世界のムスリム組織　イスラーム協力機構の役割の発展とタイ国家との関係』(2012)、『中東諸国におけるイスラーム政治　中東諸国におけるイスラーム政治の研究の重要性と問題』(2012)、『イスラーム・フォビア　学んで思い込みを解く』(2016) などがある。

40）チャイワット・サターアナン

非暴力思想、暴力・平和研究、イスラームと政治についての研究者。平和研究で世界的にも著名な政治学者。1981 年にアメリカのハワイ大学において政治学の博士号を取得。タイのタマサート大学政治学部の教員。研究・執筆だけでなく、平和活動家として様々な組織運営にも関わる。タマサート大学政治学部の平和情報センターの設立者でセンター長。

非暴力思想や暴力・平和研究の書籍や論文が多く、英語以外の言語に翻訳されたものも多い。イスラームと政治・平和に関する書籍としては編著が多いが、単著としてはタイ社会のムスリムの状況を論じた *The Life of This World : Negotiated Muslim Lives in Thai Society*（2005）、イスラームにおける非暴力思想を論じた *Essays on the Three Prophets : Nonviolence, Murder and Forgiveness*（2011）、*Nonviolence and Islamic Imperatives*（2017）、『暴力と真実の形成　パタニーの半世紀』（2008）などがある。なお日本で行なわれた国際セミナーへの提出論考「リーダーシップと死と平和」（高村忠成編訳『平和の創造と宗教：仏教を現代に問う』1986 年に所収）が邦訳されている。

６、キリスト教の研究者

キリスト教の研究者として以下の 2 名を紹介する。

41）セーリー・ポンピット

タイのキリスト教（カトリック）研究者であり、また農村開発と持続可能な農業に関する研究者・実践家でもある。ドイツのミュンヘン哲学単科大学で博士号を取得し、その後タイのタマサート大学教養学部の教員となる。1978 年から農村開発活動も始める。著作は農村開発論や充足経済論など持続可能な地域発展に関するものが大半を占めている。邦訳されたものに『村は自立できる　東北タイの労農』（1992）がある。また開発論に

関連し宗教をメインに取り上げたものとしては、*Religion in a Changing Society : Buddhism, Reform and the Role of Monks in Community Development in Thailand*（1988）がある。また、キリスト教研究としては『カトリックとタイ社会　ナライ王時代から現代まで』（1982）、『カトリックとタイ社会　価値と教訓の４世紀』（1984）などタイのカトリック史や、入門書として『キリスト教』（1986）などを執筆している。

42）ワラユット・シーワラクン

哲学・宗教哲学を専門とする研究者。1996 年にチュラーロンコーン大学文学部で博士号を取得。タイのカトリック系私立大学であるアサンプション大学哲学宗教学部の教員。主だった業績としてはプラグマティズムや教育哲学など哲学系の論文が多い。宗教研究としてはアメリカの宗教哲学者チャールズ・ハートショーンの神についての議論を扱った博士論文（英文）*Hartshorne on God : A Defense*（1996）や、"Christianity and Thai Culture"（2009）などがある。その他諸宗教概説の教科書などにも執筆している。

７、宗教研究に関わる若手・新進気鋭の研究者

どの年代が若手・新進気鋭の研究者に入るのかについて、皆が納得する基準はないと思われるので、ここでは便宜的に、博士号取得年が 2010 年以降、もしくは年齢がおおよそ 40 代半ばまでの研究者という線引きを行いたい。以下、宗教研究に携わっている研究者（仏教、古代インドの宗教、ヒンドゥー教、イスラーム、キリスト教、儒教などの研究者）13 名を取り上げたい。ただし中には得られた情報が少ないケースもあり年齢等不確かな点もある。

43）アヌソーン・ウンノー

農民運動、タイ南部国境県問題、ムスリムと政治などを研究している文

化人類学者。タイの著名なムスリム研究者としては珍しく非ムスリムの研究者である。また民主化・人権活動家としても有名。2011 年にアメリカのワシントン大学において人類学で博士号を取得。現在は、タマサート大学社会人文学部の教員。

著作は農民運動に関するものも多いが、タイ南部のマレー・ムスリムの置かれた文化的政治的状況についての論考も多い。2011 年の博士論文は、2004 年からタイ南部のムスリムが直面している暴力事件に関して、地域住民がマレー、イスラーム、タイ国家、王室といった異なる主体形成の狭間で揺れ動く様子を描いたエスノグラフィーであり、*We love Mr King : Malay Muslims of Southern Thailand in the Wake of the Unrest*（2019）は、この博士論文をもとにした著作である。タイ語書籍では、タイ南部国境県のある村を事例に、呪術も行う伝統的イスラームと国外からもたらされた改革イスラームとのせめぎあいを描いた『預言者は檳榔を噛まない』(2016) や、編著で『人類学・社会学とタイ南部国境県研究の 10 年』（2017）などがある。

44）アーミン・ローナー

タマサート大学教養学部歴史学科の博士課程の学生（ただし現在の所属は確認が取れていない)。2012 年頃から精力的に書籍を刊行している。歴史記述に関する書籍では、『タイ社会におけるイスラームの語り方の起源』（2013)、『イスラームにおける歴史記述の在り方』（2013)、イスラーム史に関しては、『ハディース・ソヒー サラフィー言説』（2013)、『シーア派の根拠がわかる』（2017)、『なぜムスリム世界には過激派が生まれるのか　ハワーリジュ派のフィトナ』（2019）などがある。その他イスラームの教えに関する著述などもある。

45）ウィキット・スクサームラーン

政治哲学や神学などの研究者。経歴や現在の所属などについては確認が取れていない。単著ではユダヤ教･イスラーム･キリスト教（アウグスティヌス、トマス･アクィナス）と政治哲学について論じた『神学と政治哲学』(2015)､共訳でアウグスティヌス『告白』などがある。その他､プラトン『カルミデス』『ラケス』『リュシス』や、ウンベルト・エーコ『薔薇の名前』などの翻訳も手掛けている。

46）ウィジャック・パーニット

チベット仏教実践者・指導者で、在野の社会評論家。近年のタイに現れた、世俗主義・政教分離の観点からタイの仏教界や国家を批判する論客の一人。アメリカのナローパ大学の大学院に進学し、2006 年に宗教学史で修士号を取得。その後タイに帰国し、宗教系の諸団体や大学等で講師を行い、また宗教的・スピリチュアルな実践指導を行うワチャラシッター研究所を設立した。プッタタート比丘が大叔父。

著作としては、チャギョム・トルゥンパ（インドに亡命後、イギリスやアメリカに移住したチベット人の仏教行者・学者）の著作の翻訳なども手掛けている。その他の著作に、仏教、瞑想、教育などを取り上げた評論書などもあるが、学術的著作としては、様々な論者との討論をまとめた『混迷の仏法 社会・政治の矛盾の中にある仏法』(2013)、タイの政教関係の問題を論じた『交錯する国家と仏法』(2015）などがある。

47）コムクリット・ウイテッケン

インド哲学、ヒンドゥー教の研究者。2008 年にチュラーロンコーン大学文学部哲学科においてヴェーダンタ哲学に関する論文を執筆し修士号を取得。その後、現代タイのヒンドゥー教信仰と仏教の関係などについての研究も行なっている。シンラパコーン大学文学の教員。著作に『バーラタ･シャム？ 精霊・バラモン・仏教？』(2017）などがある。

48）サリンヤー・アルンカジョーンサック

中国思想とりわけ儒教を専門とする研究者。2009 年にタイのチュラーロンコーン大学文学部哲学科で博士号を取得。その後、同学科の教員となる。"Ethics of Timeliness in Confucianism"（2009）や「孟子における感情と徳における４つの基礎」（2011）、「儒教に倫理における報徳」（2016）、その他の論文がある。

49）スチャート・セータマーリニー

タイのムスリム研究を専門とする社会学者。タイ北部の華人系ムスリムと多文化社会についての研究や、女性、平和といった観点からみたタイのムスリムについての研究なども行なっている。アメリカのハワイ大学においてタイ北部の華人系ムスリムのアイデンティティ変容について研究し、2010 年に社会学で博士号を取得。現在はパーヤップ大学宗教・文化と平和研究所の教員であり、タイ国イスラーム中央委員（チェンマイ県代表）などを務める。

著作には、暴力・環境倫理・政治参加など多様なテーマからムスリム世界を捉えた『暴力･平和とイスラーム世界の多様性』（2007）、平和･女性･人権などからイスラームやムスリムを論じた『社会学的イスラーム想像力』（2016）、編著に『近代世界とムスリムの若者』（2014）がある。

50）スラポット・タウィーサック

タイの政教関係の在り方を根本から批判し、世俗主義の政教関係を主張している気鋭の研究者。コーンケン大学人文社会科学部でアリストテレス研究を行ない、修士号を取得。現在はラーチャパット・スワンドゥシット大学の教員。

代表的著作として､現代タイを代表する知識人スラック･シワラック（本稿 16 の人物）の思想についての考察『3 つの論点 スラック・シワラック

の仏教・王制・民主主義についての見解』（2004）、アショーカ王時代およびその後の上座仏教における政教関係の歴史と政教分離の必要性を論じた『国家仏教から脱国家仏教へ』（2017）、タイ仏教における政教関係の問題と世俗主義の重要性等を論じたエッセイ集『国家と宗教 道徳・権力・自由』（2018）などがある。

51）ソラユット・イアムウアユット

民族と国家、国境域、映像人類学などの研究を行なっている文化人類学者。チェンマイ大学造形学科の教員。タイ南部国境県のマレー・ムスリムについてフィールドワークに基づく修士論文を執筆。そこからさらに発展させた著作として、フィールドワーク時の回顧と国境域３県の社会・文化構造を描いた『マレーを感じ取る』（2015）、同じフィールドでの出来事をより学術的・理論的に論じた『マレー人になるのは難しい』（2016）がある。

52）チャーンウィット・タットケーオ

サンスクリット語を中心としたインド学の専門家。2004 年に京都大学大学院文学研究科で仏教学を学び修士号を取得し、2010 年にドイツのルートヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘンにおいてインド学・チベット学で博士号を取得。現在は、タイのチュラーロンコーン大学文学部東洋言語学科の教員。 共編でインド学の論集『空を飾る珠玉に値する』（2017）や単著論文で “The Relationship between the Early Chinese Translation and Central Asian Versions of the Ratnaketuparivarta” (2012)、共著研究報告書に "Three Sanskrit Fragments of the Ratnaketuparivarta" (2009) などがある。

53）ピンパン・ポジャナラーワン

ラーチャパット・ランパーン大学人文社会科学部の教員。タイ近現代史

の研究者。宗教研究関連の著作としては、タイにおける民主主義や独裁などの政治体制と仏教の関係を論じた『タイ・ピドック　タイ仏教における政治社会の現代史』（2019）がある。

54）ピブーン・チュンポンパイサーン

タイ仏教を中心に研究している宗教社会学者。2011 年にロンドン大学東洋アフリカ研究学院（SOAS）において博士号を取得。現在はタイのマヒドン大学宗教学部の教員。おもに 19 世紀中頃から 20 世紀初頭におけるタイ仏教について研究をしており、"Tai-Burmese-Lao Buddhisms in the 'Modernizing' of Ban Thawai（Bangkok）: The Dynamic Interaction between Ethnic Minority Religion and British-Siamese Centralization in the Late Nineteenth / Early Twentieth Centuries"（2013）や、共著論文の "The Old Meditation（Boran Kammatthan）, a Pre-reform Theravāda Meditation System from Wat Ratchasittharam: The Piti Section of the Kammatthan Matchima Baep Lamdap"（2017）などがある。また宗教社会学の理論的考察としては、"Constrictive Constructs: Unravelling the Influence of Weber's Sociology on Theravada Studies since the 1960s"（2008）などがある。

55）ラチョット・サートラーウット

西洋哲学、宗教思想などの研究者。2002 年にチュラーロンコーン大学文学部哲学学科で修士号を取得。現在はタイ南部パタニー県にあるソンクラーナカリン大学人文・社会学科の教員。宗教思想に関する論文としては「聖イエス　信仰にもとづく哲学者」（2017）などがある。

以上が、2017 年から 2018 年にかけての調査に基づく、現代タイにお

けるタイ人の代表的な宗教研究者、および宗教研究に携わる若手・新進気鋭の研究者の紹介である。情報自体は、包括的なものとは言えないし、これから新たな研究者なども現れるだろう。しかし、現時点でこのようなリストアップをしておくことは、タイの宗教研究の思想史や社会史の研究にも役立つであろう。また一種の歴史的資料にもなりうるだろう（そのためには英語訳も必要であるが）。加えて共同研究や講演等の人選における資料にもなると思われるので、活用していただければありがたい。

・

本稿は、科研費の基盤研究（A）16H01895 および基盤研究（B）18H00612 の助成を受けたものであり、また駒澤大学の在外研究（研究期間：2017 年 4 月 1 日から 2018 年 3 月 31 日、滞在先：タイ王国マヒドン大学宗教研究部、研究テーマ「タイにおける宗教研究の歴史と現在」）における研究成果の一部である。

本稿で紹介した人物の一覧

◆上座仏教思想の研究者（10 名）

1）プッタタート比丘
2）ソムデット・プラプッタコーサージャーン（プラユット・パユットー）
3）ソムパーン・プロムター
4）チャーンナロン・ブンヌン
5）パトムポン・ポープラシッティナン
6）プラピクニー・タンマナンター（チャッツマーン・カビンシン）
7）プラプローム・バンディット（プラユーン・タンマジットー）
8）プラポット・アサワウィルラハカーン
9）メーチー・ウィムッティヤー（スパーパン・ナ・バーンチャーン）
10）ワチラ・ガームジットジャルーン

◆多様な分野における仏教研究者 (14 名)

11）アピチャイ・パンタセーン
12）アピンヤー・フアンフーサクン
13）クリスダーワン・メーターウィクン
14）サムーチャイ・プーンスワン
15）スマーリー・マハナロンチャイ
16）スラック・シワラック
17）スワンナー・サターアナン
18）ソンブーン・スクサームラン
19）タウィーワット・プンタリックウィワット
20）パッタラポーン・シリカーンジョン
21）ピニット・ラタナクン
22）ピニット・ラーパタナーノン
23）プラ・パイサーン・ウィサーロー
24）プラトゥム・アンクーンローヒット

◆タイの宗教研究を一部で行なっている研究者　（8 名）

25）クワンチーワン・ブアデーン
26）ソムバット・ジャンタワン
27）ニティ・イアオシーウォン
28）パゴーン・シンスリヤー
29）パッタナー・キッテイアーサー
30）ピパット・パスターンチャート
31）プラウェート・ワシー
32）プラコーン・ニンマーヘーミン

◆イスラーム・ムスリムの研究者　（8 名）

33）イスマーイール・ルッフィー・ジャパッキーヤー
34）イムローン・マルーリーム
35）ウィナイ・ダラン
36）サオワニー・ジットムワット

37）サラーウット・アーリー
38）シーソムポップ・ジットピロムシー
39）ジャラン・マルーリーム
40）チャイワット・サターアナン

◆キリスト教の研究者　（2 名）
41）セーリー・ポンピット
42）ワラユット・シーワラクン

◆宗教研究に関わる若手・新進気鋭の研究者　（13 名）
43）アヌソーン・ウンノー
44）アーミン・ローナー
45）ウィキット・スクサームラーン
46）ウィジャック・パーニット
47）コムクリット・ウイテッケン
48）サリンヤー・アルンカジョーンサック
49）スチャート・セータマーリニー
50）スラポット・タウィーサック
51）ソラユット・イアムウアユット
52）チャーンウィット・タットケーオ
53）ピンパン・ポジャナラーワン
54）ピブーン・チュンポンパイサーン
55）ラチョット・サートラーウット

文献一覧

◆上座仏教思想の研究者　（10 名、1 ～ 10 番）

1）プッタタート比丘　พุทธทาสภิกขุ
พุทธทาสภิกขุ, *คู่มือมนุษย์* ([ม.ป.ท.]: องค์การฟื้นฟูพุทธศาสนาในประเทศอินเดีย, 2501）　『人生読本』（1958）
พุทธทาสภิกขุ, *แก่นพุทธศาสน์* (พระนคร: โรงพิมพ์อาศรมอักษร, 2507)　『仏教

の神髄』（1964）
พุทธทาสภิกขุ ; โดนัล เค. สแวเรอร์ (บก.), *ธัมมิกสังคมนิยมม Dhammic Socialism* (กรุงเทพฯ : มูลนิธิโกมลคีมทอง, 2529) 『仏法社会主義（仏法共同体主義）』（1986）
Jackson, Peter A. *BUDDHADASA: A Buddhist Thinker for the Modern World* (Bangkok: The Siam Society Under Royal Patronage, 1988).
Ito, Tomomi. *Modern Thai Buddhism and Buddhadāsa Bhikkhu: A Social History* (Singapore: NUS Press. 2012).
ブッダダーサ比丘（浦崎雅代・星飛雄馬訳）『呼吸によるマインドフルネス　瞑想初級者のためのアーナーパーナサティ実践マニュアル』サンガ、2016 年

2）ソムデット・プラプッタコーサージャーン（プラユット・パユットー）

สมเด็จพระพุทธโฆษาจารย์ (ประยุทธ์ ปยุตฺโต)
พระเทพเวที (ประยุทธ์ ปยุตฺโต), *พุทธธรรม (ฉบับเดิม)* (กรุงเทพฯ : ม.ป.พ., 2544)（『仏法』（原版、2001）（ポー・オー・パユットー、野中耕一（編訳）『仏法　テーラワーダ仏教の叡智』サンガ、2008 年）
พระเทพเวที (ประยุทธ์ ปยุตฺโต), *พุทธธรรม ฉบับปรับปรุงและขยายความ* (กรุงเทพฯ : มหาวิทยาลัยจุฬาลงกรณ์ราชวิทยาลัย, 2543) （『仏法』（増補改訂版、2000）
สมเด็จพระพุทธโฆษาจารย์ (ป. อ. ปยุตฺโต), *พจนานุกรมพุทธศาสาน์: ฉบับประมวลธรรม* (กรุงเทพฯ : สหธรรมิก, 2560)（『仏教辞典　仏法篇』2017）（ポー・オー・パユットー、野中耕一（編訳）『ポー・オー・パユットー　仏教辞典（仏法篇）』サンガ、2012 年）
สมเด็จพระพุทธโฆษาจารย์ (ป. อ. ปยุตฺโต), *พจนานุกรมพุทธศาสาน์: ฉบับประมวลศัพท์* (กรุงเทพฯ : สหธรรมิก, 2561) （『仏教辞典　用語篇』2018）
Phra Rajavaramuni (Prayudh Payutto), *Thai Buddhism in the Buddhist World: A Survey of the Buddhist Situation against a Historical Background* (Bangkok, Amarin Printing Group, First published, 1984)
Phra Debvedi (Prayudh Pattto), *Buddhist Economics* (Bangkok,

Mahachulalongkornrajvidayalaya, 1992 [First published in Thai, 1988])

3）ソムパーン・プロムター　สมภาร พรมทา

สมภาร พรมทา, *พุทธศาสนานิกายเซน* (กรุงเทพฯ:ไทยวัฒนาพานิช, 2532) （『禅仏教』1989）

สมภาร พรมทา, *พุทธศาสนามหายาน* (กรุงเทพฯ: มหาจุฬาลงกรณ์ราชวิทยาลัย, 2534) （『大乗仏教』1991）

สมภาร พรมทา, *พุทธศาสนากับวิทยาศาสตร์* (กรุงเทพฯ: มหาจุฬาลงกรณราชวิทยาลัย, 2534) （『仏教と科学』1991）

สมภาร พรมทา, *พุทธปรัชญา: มนุษย์ สังคม และปัญหาจริยธรรม* (กรุงเทพฯ : โครงการตำรา คณะอักษรศาสตร์ จุฬาฯ, 2542) （『仏教哲学　人間・社会と倫理問題』1999）

สมภาร พรมทา, *พุทธปรัชญาในอภิธรรมปิฎก* (2559) （『論蔵における仏教哲学』2016）

Promta, Somparn. “Buddhist Studies in Thailand” *The State of Buddhist Studies in the World 1972-1997*. Edited by Swearer, Donald K. and Promta, Somparn (Bangkok: Center for Buddhist Studies, Chulalongkorn University, 2000, pp.1-32)

4）チャーンナロン・ブンヌン　ชาญณรงค์ บุญหนุน

ชาญณรงค์ บุญหนุน,"รัฐกับพุทธศาสนา ศึกษาจาก "กฎพระสงฆ" ในกฎหมายตราสามดวง", *วารสารวิทยาลัยศิลปากร* (อักษรศาสตร์ มหาวิทยาลัยศิลปากร,23 3, 2546, หน้า11-149) .（「国家と仏教　『三印法典』におけるサンガ法の研究」2003

ชาญณรงค์ บุญหนุน,"การสังคายนาในมุมมองใหม่: หนทางสู่การแก้ปัญหาของคณะสงฆ์ไทยปัจจุบัน" สุวรรณา สถาอานันท์ (บก.), *ความเรียงใหม่รื้อสร้างปรัชญาตะวันออก* (กรุงเทพฯ: สำนักพิมพ์แห่งจุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย, 2547, หน้า 1-78)（「結集を新たな視点から見る　現代タイ国サンガの問題解決に向けて」2004）

ชาญณรงค์ บุญหนุน "ผู้หญิง, ศาสนาและปรีชาญาณที่หายไป." *วารสารกระแสวฒันธรรม*, (8, 13, 2549, หน้า19-36)（「女性　失われた宗教と哲学」2006）

ชาญณรงค์ บุญหนุน, *พระสงฆ์ไทยในอนาคต: บทสำรวจเบื้องต้นว่าด้วยความ*

เปลี่ยนแปลง (กรุงเทพฯ: ศูนย์มานุษยวิทยาสิรินธร องค์การมหาชน, 2551)
(『タイ国サンガの未来　変容に関する初歩的考察』2008)

5）パトムポン・ポープラシッティナン　ปฐมพงษ์ โพธิ์ประสิทธินันท์

ปฐมพงษ์ โพธิ์ประสิทธินันท์ (บก.), *บาลีสันสกฤตวิชาการ* (กรุงเทพฯ: มูลนิธิมหามกุฏราชวิทยาลัย, 2536) (『パーリ・サンスクリット研究』1993)

ปฐมพงษ์ โพธิ์ประสิทธินันท์, *ภาษาและภาษาศาสตร์ในบาลีและสันสกฤต* (กรุงเทพฯ : สภาการศึกษามหามกุฏราชวิทยาลัย มหาวิทยาลัยพระพุทธศาสนา แห่งประเทศไทย ในวัดบวรนิเวศวิหาร, 2537) (『パーリ・サンスクリット語と言語学』1994)

ปฐมพงษ์ โพธิ์ประสิทธินันท์, *พระพุทธเจ้าตรัสสอนผมนำมาตอบให้คุณ* (นนทบุรี : ธิงค์ บียอนด์ บุ๊คส์, 2554) (『ブッダの教え　私が解説しましょう』2011)

ปฐมพงษ์ โพธิ์ประสิทธินันท์, *รายงานการวิจัยประวัติศาสตร์พระพุทธศาสนาในประเทศไทย: ตั้งแต่สมัยสุโขทัยถึงสมัยรัชกาลที่ 5* (นครปฐม: วิทยาลัยศาสนศึกษา, 2549) (『研究報告　タイ仏教史　スコータイ時代からラーマ５世王時代まで』2006)

6）プラピクニー・タンマナンター（チャッツマーン・カビンシン）

พระภิกษุณีธัมมนันทา (ฉัตรสุมาลย์ กบิลสิงห์)

Kabilsingh, Chatsmarn. *Thai Women in Buddhism* (California, Parallax Press, 1991).

Kabilsingh, Chatsmarn. *Women in Buddhism: Questions and Answers* (Bangkok, Faculty of Liberal Arts, Thammasat University, 1998).

7）プラプローム・バンディット（プラユーン・タンマジットー）

พระพรหมบัณฑิต (ประยูร ธมฺมจิตฺโต)

พระเมธีธรรมาภรณ์ (ประยูร ธมฺมจิตฺโต), *เปรียบเทียบแนวคิดพุทธทาสกับซาตร์* (กรุงเทพฯ : เคล็ดไทย,2526) (『プッタタート比丘とサルトルの思想の比較』1983)

พระเมธีธรรมาภรณ์ (ประยูร ธมมจิตโต), *ปรัชญากรีกโบราณ ตอนที่ 1-2* (กรุงเทพฯ : มหาจุฬาลงกรณราชวิทยาลัย, 2532) (『古代ギリシャの哲学　１・２』1989)

พระเมธีธรรมาภรณ์ (ประยูร ธมมจิตโต), *พุทธศาสนากับปรัชญา* (กรุงเทพฯ : อมรินทร์พริ้นติ้ง กรุ๊ฟ. 2533) (『仏教と哲学』1990)

พระเมธีธรรมาภรณ์ (ประยูร ธมฺมจิตฺโต), *ระเบียบการปกครองคณะสงฆ์ไทย* (กรุงเทพฯ : โรงพิมพ์มหาจุฬาลงกรณ์ราชวิทยาลัย, 2533) （『タイ国サンガ統治の規定』1990）

8）プラポット・アサワウィルラハカーン　ประพจน์ อัศววิรุฬหการ

Assavavirulhakarn, Prapod. *The ascendancy of Theravāda Buddhism in Southeast Asia* (Chiang Mai: Silkworm, 2010).

ประพจน์ อัศววิรุฬหการ, *โพธิสัตวจรรยา: มรรคาเพื่อมหาชน* (กรุงเทพฯ: โครงการเผยแพร่ผลงานวิชาการ คณะอักษรศาสตร์ จุฬาฯ, 2546)

9）メーチー・ウィムッティヤー（スパーパン・ナ・バーンチャーン）

แม่ชีวิมุตติยา (สุภาพรรณ ณ บางช้าง)

สุภาพรรณ ณ บางช้าง, *ประวัติวรรณคดีบาลีในอินเดียและลังกา* (กรุงเทพฯ : จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย, 2526) （『インドとスリランカにおけるパーリ文学』1983）

สุภาพรรณ ณ บางช้าง, *วิวัฒนาการงานเขียนภาษาบาลีในประเทศไทย: จารึก ตำนาน พงศาวดาร สาส์น ประกาศ* (กรุงเทพฯ: มูลนิธิมหามกุฏราชวิทยาลัยฯ, 2529) （『タイにおけるパーリ文学の展開　碑文・伝説・年代記・書簡・布告』1986）

สุภาพรรณ ณ บางช้าง, *วิวัฒนาการวรรณคดีบาลีสายพระสุตตันตปิฎกที่แต่งในประเทศไทย* ([กรุงเทพฯ] : โรงพิมพ์จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย, 2533) （『タイにおける経蔵系統のパーリ文学の展開』1990）

สุภาพรรณ ณ บางช้าง, *พุทธธรรมที่เป็นรากฐานสังคมไทยก่อนสมัยสุโขทัยถึงก่อนเปลี่ยนแปลงการปกครอง* (กรุงเทพฯ : สถาบันไทยศึกษา: โครงการเผยแพร่ผลงานวิจัย ฝ่ายวิจัย จุฬาฯ, 2535) （『タイ社会の基礎としての仏法　スコータイ時代から立憲革命前まで』1992）

10）ワチラ・ガームジットジャルーン　วัชระ งามจิตรเจริญ

วัชระ งามจิตรเจริญ, *พระพุทธศาสนากับฟิสิกส์ใหม่* (ม.ป.ท. : ม.ป.พ., 2554) （『仏教式の経済運営法　実践へ向けて』2011）

วัชระ งามจิตรเจริญ, *แนวคิดในการนำเศรษฐกิจเชิงพุทธศาสนาสู่การปฏิบัติ* (กรุงเทพฯ : สำนักพิมพ์แห่งจุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย, 2554) （『仏教と近代物理学』2011）

วัชระ งามจิตรเจริญ, พุทธศาสนาเถรวาท (กรุงเทพฯ: สำนักพิมพ์มหาวิทยาลัยธรรมศาสตร์, 2556) （『上座仏教』2013）

◆多様な分野における仏教研究者　(14 名、11 ～ 24 番)

11）アピチャイ・パンタセーン　อภิชัย พันธเสน

อภิชัย พันธเสน, *พัฒนาชนบทไทย: สมุทัยและมรรค การเปลี่ยนแปลงและการบริหารการจัดการ* (กรุงเทพฯ: มูลนิธิภูมิปัญญา, 2539) （『タイ地方村落の発展集（原因）と道（方法）　運営とマネージメントの変容』1996）

อภิชัย พันธเสน, *พุทธเศรษฐศาสตร์: วิวัฒนาการ ทฤษฎี และการประยุกต์กับเศรษฐศาสตร์สาขาต่างๆ* (กรุงเทพฯ: อมรินทร์, 2544) （『仏教経済学　その展開・理論と経済学の諸分野への応用』2001）

อภิชัย พันธเสน, *พุทธเศรษฐศาสตร์: ฉบับนิสิต นักศึกษา และประชาชน* (กรุงเทพฯ: ดอกหญ้าวิชาการ, 2549) (『仏教経済学　学部生・一般人向け』2006）

อภิชัย พันธเสน, *การประยุกต์พระราชดำริเศรษฐกิจพอเพียงกับอุตสาหกรรมขนาดกลางและขนาดย่อม* (กรุงเทพฯ : สำนักงานกองทุนสนับสนุนการวิจัย, 2546) （『国王の充足経済思想の中規模・小規模産業への応用』2003）

12）アピンヤー・フアンフーサクン　อภิญญา เฟื่องฟูสกุล

อภิญญา เฟื่องฟูสกุล, "รายงานวิจัยเรื่อง ศาสนทัศน์ของชุมชนเมืองสมัยใหม่: ศึกษากรณีวัดพระธรรมกาย", ศูนย์พุทธศาสน์ศึกษา จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย, พุทธศึกษา (กรุงเทพฯ: ศูนย์พุทธศาสน์ศึกษา ปีที่ 5 ฉบับที่ 1, 2541) (「研究報告　近代と市民の宗教観　タンマガーイ寺院のケース」1998)

อภิญญา เฟื่องฟูสกุล, มานุษยวิทยาศาสนา: แนวคิดพื้นฐานและข้อถกเถียงทางทฤษฎี (เชียงใหม่: ภาควิชาสังคมวิทยาและมานุษยวิทยา คณะสังคมศาสตร์ มหาวิทยาลัยเชียงใหม่ 2551) （『宗教人類学　基本的な視点と理論的争点』2008）

อภิญญา เฟื่องฟูสกุล, " ประสบการณ์ทางศาสนาในฐานะพื้นที่รอยต่อ: การปฏิบัติธรรมกลุ่มในประเทศไทยปัจจุบัน", *ด้วยรัก ชุด ศาสนาและความเชื่อกับสังคม รวมบทความในโอกาสศ.กิตติ คุณ ดร.ฉัตรทิพย์ นาถสุภา อายุ 72 ปี.* (กรุงเทพฯ: สร้างสรรค์, 2556) (「つながりの場としての宗教的体験　現代タイにおける集団仏教修行」2013)

Feungfusakul, Apinya. "Urban Logic and Mass Meditation in Contemporary Thailand", Ninan, Pradip and Philip, Thomas (eds.) *Global and Local Televangelism* (New York: Palgrave Macmillan, 2012)

Feungfusakul, Apinya. "Identity Politics and Religious Experience:

Case studies of Female Movement in Theravada Buddhism in Contemporary Thailand", Tanabe, Shigeharu (ed.) *Assemblages of Potential: Community Movements in Southeast Asia*. (Chiang Mai: Silkworm, 2015)

13) クリスダーワン・メーターウィクン　กฤษดาวรรณ เมธาวิกุล

กฤษดาวรรณ เมธาวิกุล, *รู้ก่อนตายไม่เสียดายชีวิต* (กรุงเทพฯ: อมรินทร์ธรรมะ, 2559) （『人生を無駄にしないために死を知る』2016）

กฤษดาวรรณ เมธาวิกุล, *สายฝนแห่งพร ธรรมะที่ริมโปเชฝากไว้ : ชีวิตและคำสอนของโยคีซกเซ็น พระอาจารย์กุนเทรอ เมินเกียล ลาเซ ริมโปเช* (กรุงเทพฯ: มูลนิธิพันดารา, 2559) （『祝福のシャワー　ヨーギー・クンドル・モンギャル・ラーセイ師の生涯とチベット仏教ゾクチェンの教え』2016）

14) サムーチャイ・プーンスワン　เสมอชัย พูลสุวรรณ

เสมอชัย พูลสุวรรณ, สัญลักษณ์ในงานจิตรกรรมไทยระหว่างพุทธศตวรรษที่ *19 ถึง 24* (กรุงเทพฯ : สำนักพิมพ์มหาวิทยาลัยธรรมศาสตร์, 2539) （『仏暦19世紀から24世紀におけるタイの壁画の象徴』1996）

เสมอชัย พูลสุวรรณ, รัฐฉาน (เมืองไต) : *พลวัตของชาติพันธุ์ในบริบทประวัติศาสตร์และสังคมการเมืองร่วมสมัย* (กรุงเทพฯ: ศูนย์มานุษยวิทยาสิรินธร (องค์การมหาชน), 2552) （『シャン州（ムアン・タイ Muang Tai）　歴史と近代政治社会における民族のダイナミズム』2009）

เสมอชัย พูลสุวรรณ, จิตรกรรมพุทธศาสนาสมัยพุกาม: รูปแบบและความหมายของศิลปะแห่งศรัทธา เล่ม 1, เล่ม 2 (กรุงเทพฯ: สำนักพิมพ์มหาวิทยาลัยธรรมศาสตร์, 2559) （『パガン時代の仏教壁画　信仰芸術の形と意味　第1巻・第2巻』2016）

15) スマーリー・マハナロンチャイ　สุมาลี มหณรงค์ชัย

สุมาลี มหณรงค์ชัย, *พุทธศาสนามหายาน* (กรุงเทพฯ : ศยาม, 2546) （『大乗仏教』 2003）

สุมาลี มหณรงค์ชัย, *ฮินดู-พุทธ จุดยืนที่แตกต่าง* (กรุงเทพฯ: สุขภาพใจ, 2546.) （『ヒンドゥー教と仏教　相違点』2003）

สุมาลี มหณรงค์ชัย, *พระนาคารชุนะกับคำสอนว่าด้วยทางสายกลาง* (กรุงเทพฯ: ศยาม, 2548) （『龍樹と中論』2005）

Mahanarongchai, Sumalee, *Health and Disease in Buddhist Minds*

(Nordhausen: Traugott Bautz. 2015)

16) スラック・シワラック　สุลักษณ์ ศิวรักษ์

Sivaraksa, Sulak. *Seeds of Peace: A Buddhist Vision for Renewing Society* (Bangkok: Sathirakoses-Nagapradipa Foundation, 1992)

Sivaraksa, Sulak. *Conflict, Culture, Change: Engaged Buddhism in a Globalizing World* (Boston: Wisdom Publications, 2005)

Sivaraksa, Sulak. (Arnold Kotler and Nicholas Bennett eds) *The Wisdom of Sustainability: Buddhist Economics for the 21st Century* (London: Souvenir Press, 2009)

スラック・シワラック（赤木攻訳）『タイ知識人の苦悩　プオイを中心として』（井村文化事業社、1984）

スラック・シワラック（辻信一・宇野真介訳）『しあわせの開発学　エンゲージド・ブディズム入門』（ゆっくり堂 、2011）

17) スワンナー・サターアナン　สุวรรณา สถาอานันท์

สุวรรณา สถาอานันท์, *ปรัชญาพุทธทาสภิกขุกับมหายานธรรม* (กรุงเทพฯ: โครงการเผยแพร่ผลงานวิจัย จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย, 2536)　（『プッタタート比丘の思想と大乗の仏法』1993）

สุวรรณา สถาอานันท์, *ศรัทธากับปัญญา: บทสนทนาทางปรัชญาว่าด้วยศาสนา* (กรุงเทพฯ : สำนักพิมพ์แห่งจุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย, 2545)　（『信仰と智慧』2002）

สุวรรณา สถาอานันท์, *อารมณ์กับชีวิตที่ดีในปรัชญาขงจื่อ* (กรุงเทพฯ: โครงการเผยแพร่ผลงานวิชาการ คณะอักษรศาสตร์ จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย, 2557)　（『儒教哲学における感情と良き人生』2014）

Satha-Anand, Suwanna. "A Buddhist Gift Enigma: Exchange in Vessantara's Bodhisattvic Perfection of Giving", Joy, Morny ed. *Women, Religion, and the Gift: An Abundance of Riche*s (Switzerland: Springer. 2017, pp.115-128).

18) ソンブーン・スクサームラン　สมบูรณ์ สุขสำราญ

สมบูรณ์ สุขสำราญ, *การพัฒนาตามแนวพุทธศาสนา: กรณีศึกษาพระสงฆ์นักพัฒนา* ([กรุงเทพฯ] : สมาคมสังคมศาสตร์แห่งประเทศไทย, 2530)　（『仏教式の開発　開発僧の研究』1987）

Suksamran, Somboon. *Political Buddhism in Southeast Asia: The*

Role of the Sangha in the Modernization of Thailand (New York: St. Martin's Press, 1976)

Suksamran, Somboon. *Buddhism and Politics in Thailand: A Study of Socio-Political Change and Political Activism of the Thai Sangha* (Singapore: Institute of Southeast Asian Studies, 1982)

Suksamran, Somboon. *Religious Belief and a Ritual of Chinese Community* (Bangkok: Research Div., Chulalongkorn University, 1987)

Suksamran, Somboon. *Buddhism and Political Legitimacy* (Bangkok: Research Dissemination Project, Research Div., Chulalongkorn University, 1993)

19) タウィーワット・プンタリックウィワット　ทวีวัฒน์ ปุณฑริกวิวัฒน์

ทวีวัฒน์ ปุณฑริกวิวัฒน์, *วิถีแห่งมหายาน* (กรุงเทพฯ: ปารมิตา, 2526) （『大乗の方法』 1983）

ทวีวัฒน์ ปุณฑริกวิวัฒน์, *เซ็นสังคมญี่ปุ่น* (กรุงเทพฯ: ธรรมสภา, 2530) （『日本社会と禅』 1987）

ทวีวัฒน์ ปุณฑริกวิวัฒน์,*เมืองไทยในความใฝ่ฝันของพระธรรมปิฎก* (กรุงเทพฯ: ม.ป.ท., ม.ป.ป.] , 2539) （『プラタムピドック（パユットー師）の視点で見たタイ社会』 1996）

ทวีวัฒน์ ปุณฑริกวิวัฒน์, *ทฤษฎีพึ่งพาและเทววิทยาแห่งการปลดปล่อย* (กรุงเทพฯ: สถาบันวิถีทรรศน์, 2544) （『従属理論と解放の神学』 2001）

Tavivat Punrtarigvivat, *Thai Buddhist Social Theory* (Bangkok: Institute of Research and Development, The World Buddhist University, 2013)

20) パッタラポーン・シリカーンジョン　ภัทรพร สิริกาญจน

ภัทรพร สิริกาญจน, *การศึกษาแนวคิดทางจริยศาสตร์ในงานเขียนของพระพรหมคุณาภรณ์* (ป.อ. ปยุตโต) (กรุงเทพฯ: มิสเตอร์ก๊อปปี้ (ประเทศไทย), 2554) （『プラモンコンテープムニー（パユットー師）の論考における倫理学』2011）

ภัทรพร สิริกาญจน, *พระพุทธศาสนาในประเทศไทย: เอกภาพในความหลากหลาย* (กรุงเทพฯ: สำนักพิมพ์มหาวิทยาลัยธรรมศาสตร์, 2557) （『タイ仏教　多様

性の中の統一』2014)
Sirikanchana, Pataraporn, *A Guide to Buddhist Monasteries and Meditation Centers in Thailand* (Bangkok: The World Fellowship of Buddhists, 4th ed. 2004)
Sirikanchana, Pataraporn, *In Search of Thai Buddhism* (Bangkok: Thammasat printing House, 2012)
21) ピニット・ラタナクン　พินิจ รัตนกุล
พินิจ รัตนกุล (ผู้เรียบเรียง) , *ปัญญาชนปุจฉา หลวงพ่อจรัญเฉลย* (นนทบุรี: ธิงค์บียอนด์, 2555) 『知識人からの問いかけ　チャルーンチャルーイ師』(2012)
Ratanakul, Pinit and Kyaw Than eds., *Health, healing and religion: an inter-religious dialogue* (Bangkok: Center of Human Resources Development, Mahidol University, 1996)
Ratanakul, Pinit. *Bioethics and Buddhism* (Bangkok: College of Religious Studies, Mahidol University, 2004)
22) ピニット・ラーパタナーノン　พินิจ ลาภธนานนท์
พินิจ ลาภธนานนท์, *บทบาทพระสงฆ์ในการพัฒนาชนบท* (กรุงเทพฯ:โครงการหนังสือเล่ม สถาบันวิจัยสังคม จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย, 2529)
พินิจ ลาภธนานนท์, *กระบวนการเปลี่ยนแปลงทางสังคมกับการปรับเปลี่ยนบทบาทการพัฒนาของพระสงฆ์นักพัฒนาในภาคอีสาน*: รายงานผลการวิจัย (กรุงเทพฯ: จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย, 2549)
พินิจ ลาภธนานนท์, *สุขภาวะของพระสงฆ์ ปี 2555* (กรุงเทพฯ: สถาบันวิจัยสังคม จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย, 2556)
พินิจ ลาภธนานนท์, *ประเด็นสุขภาวะในพระไตรปิฎก* (กรุงเทพฯ: สถาบันวิจัยสังคม จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย, 2556)
ピニット・ラーパターナーノン（加藤眞理子・林行夫訳）「「開発僧」と社会変容　東北タイの事例研究」林行夫編著『＜境域＞の実践宗教大陸部東南アジア地域と宗教のトポロジー』（京都大学出版会、2009年、307-358 頁）
23) プラ・パイサーン・ウィサーロー　พระไพศาล วิสาโล
พระไพศาล วิสาโล, *ศาสตร์และศิลป์แห่งการจัดการความดี ศึกษากรณีมูลนิธิพุทธฉือจี้*

(กรุงเทพฯ: ศูนย์ส่งเสริมและพัฒนาพลังแผ่นดินเชิงคุณธรรม, 2550) （『善を生み出す学知と技芸　仏教慈済基金会の研究』2007）

พระไพศาล วิสาโล, *พุทธศาสนาไทยในอนาคต: แนวโน้มและทางออกจากวิกฤต* (กรุงเทพฯ: มูลนิธิโกมลคีมทอง, 2552) （『未来のタイ仏教　その趨勢と危機からの脱却』2009）

24）プラトゥム・アンクーンローヒット　ประทุม อังกูรโรหิต

ประทุม อังกูรโรหิต, *พระมหาประณิธานของพระโพธิสัตว์: ข้อโต้แย้งทางปรัชญาของฌินรัน* (กรุงเทพฯ:โรงพิมพ์แห่งจุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย, 2553) （『菩薩の誓願　親鸞思想の論点』2010）

ประทุม อังกูรโรหิต, “ศาสนาในสังคมญี่ปุ่น”, ทรายแก้ว ทิพากร (บก.), *จิบน้ำชาใต้ร่มซากุระ ประจักษ์มุมใหม่ของภาพอาทิตย์อุทัย* (กรุงเทพฯ: สถาบันเอเชียศึกษา จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย, 2554, หน้า1-43) （「日本社会における宗教」2011）

Angurarohita, Pratoom *Soka Gakkai in Thailand: A Sociological Study of Its Emergence, World View, Recruitment Process, and Growth* (Ph.D. Dissertation, University of Pennsylvania, University Microfilms.1993)

◆タイの宗教研究を一部で行なっている研究者　（8 名、25 ～ 32 番）

25）クワンチーワン・ブアデーン　ขวัญชีวัน บัวแดง

ขวัญชีวัน บัวแดง, *เครือข่ายพุทธศาสนาของชาวกะเหรี่ยงข้ามแดนไทย-เมียนมาร์* (เชียงใหม่: ศูนย์วิจัยและบริการวิชาการ คณะสังคมศาสตร์ มหาวิทยาลัยเชียงใหม่, 2560) （『タイ・ミャンマー国境を越えるカレン族の仏教ネットワーク』2017）

26）ソムバット・ジャンタワン　สมบัติ จันทรวงศ์

สมบัติ จันทรวงศ์, *โครงการชุมชนปฐมอโศก: การศึกษาพุทธยูโทเปีย* (กรุงเทพฯ: โรงพิมพ์มูลนิธิธรรมสันติ, 2531) （『パトム・アソーク共同体プロジェクト　仏教ユートピアの研究』1988）

สมบัติ จันทรวงศ์, *พรรคการเมืองใหม่: ศึกษาเฉพาะกรณีพรรคพลังธรรม* (กรุงเทพฯ: มูลนิธิเพื่อการศึกษาประชาธิปไตยและการพัฒนา, 2532) （『新たな政党　法力党のケースについての研究』1989）

27) ニティ・イアオシーウォン　นิธิ เอียวศรีวงศ์

นิธิ เอียวศรีวงศ์, อิสลามสมัยแรก (พระนคร: สมาคมสังคมศาสตร์แห่งประเทศไทย, 2511)　（初期の時代のイスラーム』1968）

นิธิ เอียวศรีวงศ์, *ลัทธิพิธีเสด็จพ่อ ร.5* (กรุงเทพฯ : มติชน, 2536)　（『聖国父ラーマ5世王信仰』1993）

นิธิ เอียวศรีวงศ์, *พุทธศาสนาในความเปลี่ยนแปลงของสังคมไทย* (กรุงเทพฯ: มูลนิธิโกมลคีมทอง, 2543)　（『タイの社会変動における仏教』2000）

เอดเวิร์ด กอนเซ เขียน, นิธิ เอียวศรีวงศ์ แปล, พุทธศาสนา : *สาระและพัฒนาการ* (พระนคร: สุภา, 2514)　（コンゼ，エドワード『仏教　その教理と展開』タイ語訳1971、原著1951）

玉田芳史編『ニティ選集』（京都大学東南アジア研究センター、1999 年）

ニティ・イーオシーウォン（吉川利治編訳）『当てにならぬがばかにできない時代　タイの社会と文化』 NTT 出版、2000 年）

ニティ・イーオシーウォン（西本陽一、アナンタナコム・パニダ訳）『東北タイのロケット祭り』（金沢大学文学部 , 2007 年）

28) パゴーン・シンスリヤー　ปกรณ์ สิงห์สุริยา

ปกรณ์ สิงห์สุริยา, *ความจริงของเรื่องเล่าทางศาสนา* (วิทยานิพนธ์ (อ.ด.)--จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย, 2540)　（『宗教的言説における真理』1997）

ปกรณ์ สิงห์สุริยา, "พระพุทธศาสนากับการพัฒนาจริยธรรมของสังคม" *รวมบทความวิชาการด้านสังคมศาสตร์ มนุษยศาสตร์ และศึกษาศาสตร์.* (นครปฐม: คณะสังคมศาสตร์และมนุษยศาสตร์, 2543, หน้า 19-23)　（「仏教と社会における倫理の発展」2000）

วิภาพา อังสุมาลิน, ปกรณ์ สิงห์สุริยา, *วัดอนงคาราม เขตคลองสาน กรุงเทพมหานคร การจัดการศึกษาพระพุทธศาสนาวันอาทิตย์ดีเด่น　เอกสารชุดโครงการวิจัยและส่งเสริมวัดเพื่อการพัฒนาการศึกษาและเผยแผ่ศาสนธรรม* (กรุงเทพฯ: สำนักเลขาธิการสภาการศึกษา, 2548)　（「ノンカーラーム寺院（バンコク都クローンサーン区）　優れた日曜仏教学習運営」2005）

Singsuriya, Pagorn "Interpretation and Explanation of Buddhism through Scientific Framework: Case Studies in Thailand" *วารสารพุทธศาสน์ศึกษา* (Vol.20 No.2: May - August, 2013, pp.29-76)

29) パッタナー・キッテイアーサー　พัฒนา กิติอาษา

Kitiarsa, Pattana. *Mediums, Monks, and Amulets: Thai Popular Buddhism Today* (Chiang Mai: Silkworm Books, 2012)

30) ปิพัฒน์ ปัสตันชาติ　พิพัฒน์ พสุธารชาติ

พิพัฒน์ พสุธารชาติ, *รัฐกับศาสนา: บทความว่าด้วยอาณาจักร ศาสนจักร และเสรีภาพ* (กรุงเทพฯ: ศยาม, 2545) （『国家と宗教　政治領域・宗教領域と自由に関して』2002）

พิพัฒน์ พสุธารชาติ, องค์รวม: *บทวิพากษ์ว่าด้วยวิทยาศาสตร์และศาสนาในสังคมไทย* (กรุงเทพฯ : ศยาม, 2548) （『ホーリズム　タイ社会における科学と宗教に関する議論』2005）

พิพัฒน์ พสุธารชาติ (บก.), *ฮาเบอร์มาสกับสังคมแบบลังฆราวาส The Religious Studies Project #01* (กรุงเทพฯ: Illuminations Editions, 2562) （『ポストセキュラー・ソサエティ　ハーバーマスとポスト世俗社会』2019）

31) ปราวูเต・วชิร　ประเวศ วะสี

ประเวศ วะสี, *สาธารณสุขกับพุทธธรรม* (กรุงเทพฯ : มูลนิธิโกมลคีมทอง, 2521) 1978 （『福祉と仏教』1978）

ประเวศ วะสี, *ศาสนาเพื่อสังคม: รวมปาฐกถามูลนิธิโกมลคีมทอง ปี 2519 และ 2522* (กรุงเทพฯ : มูลนิธิโกมลคีมทอง, 2525) （『社会のための宗教　カモーンキームトーン財団講演集　1976年と1979年』1982）

ประเวศ วะสี, *พุทธเกษตรกรรมกับศานติสุขของสังคมไทย* (กรุงเทพฯ: หมอชาวบ้าน, 2530) （『仏教的農業とタイ社会の平和』1987）

ประเวศ วะสี, *ลัทธิธรรมกายกับบทบาทของสังคมไทย* (กรุงเทพฯ: สมาคมศิษย์เก่ามหาจุฬาลงกรณราชวิทยาลัย, 2542) （『タンマガーイ派とタイ社会の役割』1999）

ประเวศ วะสี, *ธรรมสัญจรสู่มูลนิธิพุทธฉือจี้* (กรุงเทพฯ: หมอชาวบ้าน, 2552) （『仏法の旅　仏教慈済基金会を訪問』2009）

32) ปราโคน・นิมมานเหมินท์　ประคอง นิมมานเหมินท์

ประคอง นิมมานเหมินท์, *ศึกษาวรรณคดีเรื่องมหาชาติของลานนาในสภาพที่เป็นวรรณคดีท้องถิ่น* (กรุงเทพฯ: อักษรสยามการพิมพ์, 2521) （『地方文学としてのランナーのジャータカ物語の研究』1978）

ประคอง นิมมานเหมินท์, *ปริทรรศน์ วรรณกรรมพุทธศาสนา* (กรุงเทพฯ: ภาควิชาภาษาไทย คณะอักษาศาสตร์ จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย, 2542) （『探求　仏教説話』1999）

◆イスラーム・ムスリムの研究者　(8 名 33 ～ 40 番)

33) イスマーイール・ルッフィー・ジャパッキーヤー　อิสมาอีลลุตฟี จะปะกียา

อิสมาอีล ลุตฟี จะปะกียา, จารึก เซ็นเจริญ และมุฮัมมัด พายิบ, แปล. *วิธีศึกษาคัมภีร์อัลกุรอาน* (กรุงเทพฯ : อัล-อีหม่าน, 2546) (『聖典クラーンの学び方』2003)

อิสมาอีล ลุตฟี จะปะกียา, อิสลามศาสนาแห่งสันติภาพ (ปัตตานี: มัจลิสอิลมีย์, 2547) (『平和の宗教・イスラーム』2004)

34) イムローン・マルーリーム　อิมรอน มะลูลีม

อิมรอน มะลูลีม, *ศาสนาอิสลามเบื้องต้น* (กรุงเทพฯ: โครงการตำราภาควิชาปรัชญาและศาสนา คณะสังคมศาสตร์ มหาวิทยาลัยเกษตรศาสตร์, 2524) (『イスラーム教入門』1981)

อิมรอน มะลูลีม, *ปรัชญาอิสลาม* (อิมรอน มะลูลีม. กรุงเทพฯ: ทางนำ, 2534) (『イスラーム哲学』1991)

อิมรอน มะลูลีม, *วิเคราะห์ความขัดแย้งระหว่างรัฐบาลไทยกับมุสลิมในประเทศไทย: กรณีศึกษากลุ่มมุสลิมในเขตจังหวัดชายแดนภาคใต้* (กรุงเทพฯ: อิสลามิคอะเคเดมี, 2538) (『タイ政府とタイのムスリムとの紛争についての分析　タイ南部国境県におけるムスリム集団のケース』1995)

35) ウィナイ・ダラン　วินัย ดะห์ลัน

วินัย ดะห์ลัน, *รุกตลาดอาหารฮาลาลโลก* (กรุงเทพฯ: กระทรวงการต่างประเทศ, 2551) (『世界のハラール食市場に進出』2008)

วินัย ดะห์ลัน, *100เรื่องงานเทคโนโลยีและนวัตกรรมจากวิทยาศาสตร์สู่ฮาลาล* (กรุงเทพฯ: ศูนย์วิทยาศาสตร์ฮาลาล จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย, 2559) (『100の応用技術改善科学からハラールへ』2016)

วินัย ดะห์ลัน, *นบีมูฮำมัด (ซ.ล.): จากพระมหาคัมภีร์อัลกุรอานสู่วิถีฮาลาล* (กรุงเทพฯ : ศูนย์วิทยาศาสตร์ฮาลาล จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย, 2560) (『預言者ムハンマド　聖クルアーンからハラールの方法へ』2017)

Dahlan, Winai. *Muhammad: The World's Great Scientist* (Bangkok: The Halal Science Center, Chulalongkorn University, 2015)

36) サオワニー・ジットムワット　เสาวนีย์ จิตต์หมวด

เสาวนีย์ จิตต์หมวด, *หน้าที่ของมัสยิดต่อสังคมมุสลิมในภาคกลาง* (วิทยานิพนธ์ (สค.ม.), จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย, 2527) (『タイ中部のムスリム社会におけるモスクの役割』1984)

เสาวนีย์ จิตต์หมวด, *กลุ่มชาติพันธุ์ : ชาวไทยมุสลิม* (กรุงเทพฯ: กองทุนสง่ารุจิระอัมพร, 2531) （『民族集団　タイ・ムスリムの人々』1988）
เสาวนีย์ จิตต์หมวด, *วัฒนธรรมอิสลาม* (กรุงเทพฯ : ทางนำ, 2535) （『イスラーム文化』1992）
เสาวนีย์ จิตต์หมวด, *ผู้หญิงมุสลิมกับการดำเนินชีวิตในยุคไฮเทค* (กรุงเทพฯ: กองทุนสง่ารุจิระอัมพร, 2535) （『ムスリム女性とテクノロジー時代の生活』1992）
サオワニー・チットムアット（高岡正信訳）「タイ・ムスリム社会の位相　歴史と現状」林行夫編著『＜境域＞の実践宗教　大陸部東南アジア地域と宗教のトポロジー』（京都大学出版会、2009 年、677-728 頁）
サオワニー・チットムアット（高岡正信訳）「タイ・ムスリム関連資料」林行夫編著『＜境域＞の実践宗教　大陸部東南アジア地域と宗教のトポロジー』（京都大学出版会、2009 年、813-825 頁）
37）サラーウット・アーリー　ศราวุฒิ อารีย์
ศราวุฒิ อารีย์ และคนอื่นๆ, *โครงการจัดทำสารานุกรมตะวันออกกลาง: รายงานวิจัยฉบับสมบูรณ์* (กรุงเทพฯ : สำนักงานกองทุนสนับการวิจัย, 2551) （『中東事典プロジェクト　研究報告書　最終版』2008）
ศราวุฒิ อารีย์ , *บทบาทขององค์กรการกุศลมุสลิมสากลในประเทศไทย: ศึกษากรณีองค์การสันนิบาตมุสลิมโลก มูลนิธิฟื้นฟูมรดกอิสลาม และสภายุวมุสลิมโลก: รายงานวิจัย* (กรุงเทพฯ: ศูนย์ศึกษานโยบายเพื่อการพัฒนา คณะเศรษฐศาสตร์ จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย, 2552) （『タイの国際ムスリム慈善組織の役割　ムスリム世界連盟・イスラーム遺産修復財団、世界イスラーム青年会議』2009）
ศราวุฒิ อารีย์ , *การเรียนรู้วัฒนธรรมตะวันออกกลาง: เข้าใจถึงวิถีอาหรับเพื่อการติดต่อเชิงธุรกิจ: รายงานวิจัยฉบับสมบูรณ์* (กรุงเทพฯ: ศูนย์ศึกษานโยบายเพื่อการพัฒนา คณะเศรษฐศาสตร์ จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย, 2553) （『中東文化を学ぶ　ビジネス交渉におけるアラブの方法を理解する　最終報告書』2010）
Aree, Srawut and Shekh Mohammad Altafur Rahman. *Role of Islam in Contributing to the Construction of ASEAN Socio-Cultural Community* (Bangkok: Institute of Asian Studies, Chulalongkorn University, 2016)

38) シーソムポップ・ジットピロムシー　ศรีสมภพ จิตร์ภิรมย์ศรี

ศรีสมภพ จิตร์ภิรมย์ศรี, กุสุมา กูใหญ่, บรรณาธิการ, ทรายขาว: *ภาพชีวิตและความเคลื่อนไหวของชุมชนในปัตตานี* (ปัตตานี: ศูนย์บริการวิชาการและชุมชน คณะมนุษยศาสตร์และสังคมศาสตร์ มหาวิทยาลัยสงขลานครินทร์ วิทยาเขตปัตตานี, 2545)　（『パタニーにおける共同体の人生と運動』 2002）

ศรีสมภพ จิตร์ภิรมย์ศรี (บก.), *การเปลี่ยนผ่านทางการเมืองและการสื่อสารเพื่อสร้างสันติภาพ: แนวคิดและประสบการณ์* (ปัตตานี: สถานวิจัยความขัดแย้งและความหลากหลายทางวัฒนธรรมภาคใต้ มหาวิทยาลัยสงขลานครินทร์ วิทยาเขตปัตตานี, 2562)　（『平和構築ための政治と通信の変遷　思考と経験』2019）

39) ジャラン・マルーリーム　จรัญ มะลูลีม

จรัญ มะลูลีม, *ความหลากหลายและการสร้างบูรณาการทางสังคมของประชาคมมุสลิมในเอเชียตะวันตก: รายงานผลการวิจัย* (กรุงเทพฯ: สถาบันเอเชียศึกษา จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย, 2539)　（『中東におけるムスリム共同体の多様性と統合研究報告』 1996）

จรัญ มะลูลีม, *OIC องค์การมุสลิมโลกในโลกมุสลิม: พัฒนาการบทบาทขององค์การความร่วมมืออิสลามและความสัมพันธ์กับประเทศไทย* (กรุงเทพฯ: ศยาม, 2555)（『OIC ムスリム世界のムスリム組織　イスラーム協力機構の役割の発展とタイ国家との関係』2012）

จรัญ มะลูลีม, *อิสลามการเมืองในการเมืองตะวันออกกลาง: ความสำคัญของปัญหาในการศึกษาอิสลามการเมืองในการเมืองตะวันออกกลาง* (กรุงเทพฯ: ศยาม, 2555)　（『中東諸国におけるイスラーム政治　中東諸国におけるイスラーム政治の研究の重要性と問題』2012）

จรัญ มะลูลีม, *Islamophobia: เรียนรู้ลบเลือนความหวาดระแวง* (กรุงเทพฯ: มติชน, 2559)（『イスラーム・フォビア　学んで思い込みを解く』2016）

40) チャイワット・サターアナン　ชัยวัฒน์ สถาอานันท์

ชัยวัฒน์ สถาอานันท์, *ความรุนแรงกับการจัดการความจริง: ปัตตานีในรอบกึ่งศตวรรษ* (กรุงเทพฯ : สำนักพิมพ์มหาวิทยาลัยธรรมศาสตร์, 2551)　（『暴力と真実の形成　パタニーの半世紀』2008）

Satha-Anand, Chaiwat. *The Life of This World: Negotiated Muslim Lives in Thai Society* (Singapore: Marshall Cavendish Academic, 2005)

Satha-Anand, Chaiwat. *Essays on the Three Prophets: Nonviolence, Murder and Forgiveness* (Dunedin: Dunedin Abrahamic Interfaith Group, University of Otago, 2011)

Satha-Anand, Chaiwat. *Nonviolence and Islamic Imperatives* (Sparsnas, Sweden: Irene Publishing, 2017)

チャイワット・サタアナンド「リーダーシップと死と平和」高村忠成編訳『平和の創造と宗教：仏教を現代に問う』（第三文明社、1986 年）

◆キリスト教の研究者　（2 名　41 ～ 42 番）

41）セーリー・ポンピット　เสรี พงศ์พิศ

เสรี พงศ์พิศ, *คาทอลิคกับสังคมไทยตั้งแต่สมัยพระนารายณ์จนถึงปัจจุบัน* (กรุงเทพฯ: สถาบันไทยคดีศึกษา มหาวิทยาลัยธรรมศาสตร์, 2525)　（『カトリックとタイ社会　ナライ王時代から現代まで』1982）

เสรี พงศ์พิศ, *คาทอลิกกับสังคมไทย: สี่ศตวรรษแห่งคุณค่าและบทเรียน* (กรุงเทพฯ: มูลนิธิโกมลคีมทอง, 2527)　（『カトリックとタイ社会　価値と教訓の4世紀』1984）

เสรี พงศ์พิศ, *ศาสนาคริสต์* (กรุงเทพฯ: โรงพิมพ์เอดิสัน, 2529)　（『キリスト教』1986）

Phongphit, Seri. *Religion in a Changing Society: Buddhism, Reform and the Role of Monks in Community Development in Thailand* (Hong Kong: Arena press, 1988)

セーリー・ポンピット（野中耕一編訳）『村は自立できる　東北タイの労農』（燦々社 、タイ東京堂書店 、1992）

42）ワラユット・シーワラクン　วรยุทธ ศรีวรกุล

วรยุทธ ศรีวรกุล, *ทรรศนะของฮาร์ตชอร์นเกี่ยวกับพระเจ้า: การอ้างเหตุผลสนับสนุน* (2539)　/　Sriewarakul,Warayutha. *Hartshorne on God: A Defense* (Thesis 1996)

Sriwarakuel, Warayuth. "Christianity and Thai Culture", Donny Gahral Adian, Gadis Arivia eds, *Relations Between Religions and Cultures in Southeast Asia*, (Washington, D.C., Council for Research in Values and Philosophy, Department of Philosophy,

University of Indonesia, 2009, pp.91-102.)

◆宗教研究に関わる若手・新進気鋭の研究者　（13 名　43 ～ 55 番）

43）アヌソーン・ウンノー　อนุสรณ์ อุณโณ

อนุสรณ์ อุณโณ, *นบีไม่กินหมาก* (ปัตตานี: ปาตานี ฟอรั่ม, 2559) 『預言者は檳榔を噛まない』（2016）

อนุสรณ์ อุณโณ (บก.), *หนึ่งทศวรรษ มานุษยวิทยาและสังคมวิทยากับการศึกษาจังหวัดชายแดนภาคใต้* (กรุงเทพฯ: ศูนย์ศึกษาสังคมและวัฒนธรรมร่วมสมัย, 2560) （『人類学・社会学とタイ南部国境県研究の10年』2017）

Unno, Anusorn. *We love Mr King: Malay Muslims of Southern Thailand in the Wake of the Unrest* (Singapore: ISEAS Yusof ishak institute, 2019)

44）アーミン・ローナー　อามีน ลอนา

อามีน ลอนา, *จุดกำเนิดอิสลาภายใต้คำอธิบายของสังคมไทย* (กรุงเทพฯ: อัซซาบิกูน, 2556) （タイ社会におけるイスラームの語り方の起源』2013）

อามีน ลอนา, *อิสลามกับระบบการตรวจสอบเรื่องเล่าในอดีต* (กรุงเทพฯ: อัซซาบิกูน, 2556) （『イスラームにおける歴史記述の在り方』2013）

อามีน ลอนา, *หะดีษเศาะฮีฮ: ว่าด้วยระเบียบ (มันฮัจ) สะลัฟ* (กรุงเทพฯ: อัซซาบิกูน, 2556) （『ハディース・ソヒー　サラフィー言説』2013）

อามีน ลอนา, *สุดท้ายข้าพเจ้าก็เข้าใจหลักฐานจากซ็อะฮฺ* (กรุงเทพฯ: อัซซาบิกูน, 2560) （『シーア派の根拠がわかる』2017）

อามีน ลอนา, *ทำไมโลกมุสลิมถึงมีกลุ่มก่อการร้าย?* (กรุงเทพฯ: อัซซาบิกูน, 2562) （『なぜムスリム世界には過激派が生まれるのか　ハワーリジュ派のフィトナ』2019）

45）ウィキット・スクサームラーン　วิกิจ สุขสำราญ

วิกิจ สุขสำราญ, *เทววิทยากับปรัชญาการเมือง* (กรุงเทพฯ: มูลนิธิเพื่อการศึกษาประชาธิปไตยและการพัฒนา, 2558) （『神学と政治哲学』2015）

46）ウィジャック・パーニット　วิจักขณ์ พานิช

วิจักขณ์ พานิช, *ธรรมนัว : พุทธธรรมท่ามกลางความขัดแย้งทางสังคมและการเมือง* (กรุงเทพฯ: ปลากระโดด, 2556) （『混迷の仏法　社会・政治の矛盾の中にある仏法』2013）

วิจักขณ์ พานิช, *รัฐ-ธรรม-นัว* (กรุงเทพฯ: มติชน, 2558) （『交錯する国家と仏法』2015）

47）コムクリット・ウイテッケン　คมกฤช อุ่ยเต็กเค่ง

คมกฤช อุ่ยเต็กเค่ง, *ภารตะ-สยาม? ผี พราหมณ์ พุทธ?* (กรุงเทพฯ : มติชน, 2560)（『バーラタ・シャム？　精霊・バラモン・仏教？』2017）

48）サリンヤー・アルンカジョーンサック　ศริญญา อรุณขจรศักดิ์

ศริญญา อรุณขจรศักดิ์, "อารมณ์และคุณธรรมหลักทั้งสี่ในจริยศาสตร์เมิ่งจื่อ" ชาญณรงค์ บุญหนุน และ สุวรรณา สถาอานันท์ (บก.), *อารมณ์กับจริยศาสตร์* (กรุงเทพ: สำนักพิมพ์วิภาษา, 2554, หน้า 188-294) （「孟子における感情と徳における4つの基礎」2011）

ศริญญา อรุณขจรศักดิ์, "คุณธรรมความกตัญญูในจริยศาสตร์ขงจื่อ" สุวรรณา สถาอานันท์ (บก.), *สร้างแผนที่จริยศาสตร์* (กรุงเทพฯ: วิภาษา, 2559, หน้า 111-200) （「儒教に倫理における報徳」2016）

Arunkhajornsak, Sarinya. "Ethics of Timeliness in Confucianism" *Manusya: Journal of Humanities* (12, No. 2, 2009, pp46-62)

49）スチャート・セータマーリニー　สุชาติ เศรษฐมาลินี

สุชาติ เศรษฐมาลินี, *ความรุนแรง สันติภาพ และความหลากหลายในโลกอิสลาม* (กรุงเทพฯ : ศยาม, 2550) （『暴力・平和とイスラーム世界の多様性』2007）

สุชาติ เศรษฐมาลินี, วิสุทธิ์ บิลล่าเต๊ะ (บก.), *คนหนุ่มสาวมุสลิมกับโลกสมัยใหม่* (กรุงเทพฯ : คณะทำงานวาระทางสังคม สถาบันวิจัยสังคม จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย, 2557) （『近代世界とムスリムの若者』2014）

สุชาติ เศรษฐมาลินี, *จินตนาการอิสลามเชิงสังคมวิทยา* (ปัตตานี: ปาตานีฟอรั่ม, 2559) （『社会学的イスラーム想像力』2016）

50）スラポット・タウィーサック　สุรพศ ทวีศักดิ์

สุรพศ ทวีศักดิ์, *ไตรทัศน์วิจารณ์: ความคิดว่าด้วยพุทธศาสนา สถาบันกษัตริย์ และประชาธิปไตยของ ส. ศิวรักษ์* (กรุงเทพฯ : สยามปริทัศน์, 2557) 『3つの論点　スラック・シワラックの仏教・王制・民主主義についての見解』2014）

สุรพศ ทวีศักดิ์, *จากพุทธศาสนาแห่งรัฐสู่พุทธศาสนาที่เป็นอิสระจากรัฐ* (กรุงเทพฯ: สยามปริทัศน์, 2560) （『国家仏教から脱国家仏教へ』2017）

สุรพศ ทวีศักดิ์, *รัฐกับศาสนา: ศีลธรรม อำนาจ และอิสรภาพ* (กรุงเทพฯ: สยามปริทัศน์,

2561) (『国家と宗教　道徳・権力・自由』2018)

51) ソラユット・イアムウアユット　ศรยุทธ เอี่ยมเอื้อยุทธ

ศรยุทธ เอี่ยมเอื้อยุทธ, *มลายูที่รู้สึก* (ปัตตานี: ปาตานีฟอรั่ม, 2558) (『マレーを感じ取る』2015)

ศรยุทธ เอี่ยมเอื้อยุทธ, *มันยากที่จะเป็นมลายู* (กรุงเทพฯ: มติชน, 2559) (『マレー人になるのは難しい』2016)

52) チャーンウィット・タットケーオ　ชานป์วิชช์ ทัดแก้ว

ชานป์วิชช์ ทัดแก้ว, ณัชพล ศิริสวัสดิ์ (บก.), *คือรัตนะประดับนภา* (กรุงเทพฯ: โครงการเผยแพร่ผลงานวิชาการ　คณะอักษรศาสตร์　จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย, 2560) (『空を飾る珠玉に値する』2017)

Tudkeao, Chanwit. “The Relationship between the Early Chinese Translation and Central Asian Versions of the Ratnaketuparivarta” *International Journal of Buddhist Studies* (3, 2012)

Hartmann, Jens-Uwe and Tudkeao, Chanwit. "Three Sanskrit Fragments of the Ratnaketuparivarta" Seishi Karashima, Jundo Nagashima and Klaus Wille eds., (Germany, Europe: Ludwig-Maximilians-Universität München, 2009)

53) ピンパン・ポジャナラーワン　ภิญญพันธุ์ พจนะลาวัณย์

ภิญญพันธุ์ พจนะลาวัณย์, *ไทยปีฎก: ประวัติศาสตร์การเมืองสังคมร่วมสมัยของพุทธศาสนาไทย* (กรุงเทพฯ: Illuminations Editions, 2562) (『タイ・ピドック　タイ仏教における政治社会の現代史』2019)

54) ピブーン・チュンポンパイサーン　พิบูลย์ ชุมพลไพศาล

Choompolpaisal, Phibul. "Constrictive Constructs: Unravelling the Influence of Weber's Sociology on Theravada Studies since the 1960s" *Contemporary Buddhism* (Vol. 9 Issue 1, May 2008, p7-51)

Choompolpaisal, Phibul. "Tai-Burmese-Lao Buddhisms in the 'Modernizing' of Ban Thawai (Bangkok): The Dynamic Interaction between Ethnic Minority Religion and British-Siamese Centralization in the Late Nineteenth / Early Twentieth Centuries" *Contemporary Buddhism* (vol 14, no.1, 2013, pp.93-114)

Skilton, Andrew Trevor and Choompolpaisal, Phibul. "The Old Meditation (Boran Kammatthan), a Pre-reform Theravāda Meditation System from Wat Ratchasittharam: The Piti Section of the Kammatthan Matchima Baep Lamdap" *Aséanie* (vol 33, 2017, pp.83–116)

55）ラチョット・サートラーウット　รชฎ สาตราวุธ

รชฎ สาตราวุธ "พระเยซู: นะกปรัชญาแห่งศรัทธา" คงกฤช ไตรยวงศ์ และ รชฎ สาตราวุธ (บก.) ,*ดั่งสลักและขัดเงา: หนังสือรวมบทความวิชาการเนื่องในโอกาสเกษียณอายุราชการ ศ.ดร.สุวรรณา สถาอานันท์* (กรุงเทพฯ: สมมติ, 2560, หน้า 124-180)　（「聖イエス信仰にもとづく哲学者」2017）